

令和6年度

学校評価 自己評価報告書

【報告内容】

- I 学校の現況
- II 教職員による自己評価
- III 全体を通して

茨城県結城看護専門学校  
学校評価委員会

# I 学校の現況

## (1) 財団設立目的

茨城県内、主に県西地域の地域医療のために必要な看護師の養成確保と、県西地域に従事する看護職員の資質向上を目的として、平成3年6月11日(平成25年4月1日公益財団法人に移行)に財団を設立した。平成5年4月の開校をめざして諸々の準備がなされ、平成4年12月に厚生省より看護婦養成所として指定を受けた。

また平成5年3月に教育庁より専修学校として認可を受け、本校が開校されるに至った。事業内容は、①茨城県結城看護専門学校の運営 ②看護職員に対する研修の実施 としている。

## (2) 学校設置目的

本校は、保健師助産師看護師法(昭和23年法律第203号。以下「法」という。)に基づき看護師として必要な専門的知識及び技術を習得させるとともに、豊かな人間性を養い、専門職業人としての自覚と責任をもった社会に貢献し得る有能な人材を育成することを目的とする。

## (3) 沿革

○所在地 茨城県結城市結城1211番地7 TEL 0296-33-1922

平成 3年 6月 11日	財団法人茨城県看護教育財団設立認可
平成 4年 1月 31日	教育庁に専修学校設置計画書提出、厚生省に看護婦養成所設置計画書提出
平成 4年 3月 31日	教育庁より専修学校設置承認
平成 4年 12月 15日	厚生省より看護婦養成所の指定 3年課程 1学年定員50名
平成 5年 3月 1日	教育庁より専修学校の認可 3年課程 1学年定員50名
平成 8年 3月 6日	第1回生46名 卒業
平成 9年 4月 1日	学則の改正(新教育課程となる)
平成17年 4月 1日	学則の改正(新教育課程となる)
平成21年 4月 1日	学則の改正(新教育課程となる。97単位3000時間)
平成22年 4月 1日	学則の改正(1学年定員40名となる)
平成24年 8月 25日	学校創立20周年記念式典挙行
平成25年 4月 1日	公益財団法人へ移行
令和 4年 4月 1日	学則の改正(新教育課程となる。111単位3000時間)

## (4) 教育理念等

### <教育理念>

本校は、学生の個性や主体性を尊重し、自己および他者への深い理解ができる豊かな人間性と倫理性を育む。また、専門職業人として生涯学び続け、他の専門職等と連携・協働し、社会の動向を見据え、常に必要かつ最高の看護を提供し、地域社会の健康と福祉の向上に貢献できる実践者の育成をめざす。このような考えに基づき、看護師として必要な基礎的能力を身につけ、必要とされるあらゆる場で看護が実践できる人材を育成する。

### <教育目的>

看護師として必要な専門的知識及び技術を修得させるとともに、豊かな人間性を養い、専門職業人として自覚と責任をもって社会に貢献できる有能な人材を育成する。

### <教育目標>

- 1 看護の対象である人間を、身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解する能力を養う。
- 2 人間の健康を、環境との相互作用や心身相関の観点から理解し、人間を「生活者」としての視点で捉える基礎的能力を養う。
- 3 人々の多様な価値観を認識し、専門職業人として倫理に基づいた行動ができる能力を養う。
- 4 科学的根拠に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。
- 5 看護の役割と責任を自覚し、関係する人々と連携・協働できる能力を養う。
- 6 社会の要請に応えられる看護師をめざして、研究的態度や自己啓発していく姿勢を養う。

### <期待する卒業生像> ディプロマ・ポリシー

教育理念を基に本校の教育課程に沿って研鑽に努め、所定の単位数を修得した者に、卒業を認定するとともに、専門士(看護専門課程)の称号を与える。卒業までに修得する基礎的能力の目安は次のとおりとする。

- 1 誠実で公平な倫理観を備えた人
- 2 対象を生活者として理解し、その人らしい生活を考えることができる人
- 3 科学的根拠に基づいた看護を、安全・安楽に実践できる人
- 4 専門職業人としての自覚と責任のもと、主体的な行動がとれる人
- 5 保健医療福祉チームにおいて、看護の機能と役割を果たすことができる人
- 6 広い視野で、生涯学習し続け、必要とされる看護を考え続けることができる人

### <教育課程編成・実施の方針> カリキュラム・ポリシー

教育目的・目標の実現をめざし、必要な知識・技能などを修得させるために、基礎分野、専門基礎分野、専門分野に授業科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を行う。

教育課程については、「教育課程の基本的な考え方」に科目の設定、各分野の基本的な考え方、科目のねらいを示している。

### <求める入学生像> アドミッション・ポリシー

本校の教育理念・目的・目標を踏まえ、人間愛を基盤とした地域に貢献できる看護実践者を育成するために、下記のような素地を持つ入学生を広く求める。

- 1 他者への関心が高く、温かな関心が向けられる人
- 2 看護師になるという明確な動機と目的意識を持っている人
- 3 探究心をもって、主体的に学習に取り組む意欲のある人
- 4 他者の意見を聞き入れる柔軟さと素直さを持ち、円滑にコミュニケーションがとれる人
- 5 心身ともに健やかで、常識的な行動が取れる人

### (5) 学生数及び教職員数

#### <学生数>

R7年1月1日現在

	4月現員	退学者	休学者	在籍者
1学年(第32回生)	40名(男2・女38)	0	0	40名
2学年(第31回生)	36名(男5・女31)	0	1名	36名(うち休学1名)
3学年(第30回生)	37名(男3・女34)	0	0	37名
合計	113人(男10・女103)	0	1名	113名(うち休学1名)

#### <教職員> 全教職員 17人 (R7年1月1日現在)

管理職 … 学校長・事務長・教頭

事務職 … 事務主任1人、教務事務1人(司書兼務)、事務補助1人

教員 … 教務主任1人、実習調整者1人、専任教員6人、実習指導教員2人

(※ 学年チーム 3人 実習チーム 4人)

職員内訳) \*財団職員 6人(学校長・専任教員1人・実習指導教員2人・教務事務1人・事務補助1人)

\*結城市職員 3人(事務長・事務主任・専任教員1人)

\*茨城県職員 4人(教頭・教務主任・専任教員2人)

\*病院派遣職員 4人(専任教員)

<委員会> 3委員会

・学校評価委員会    ・教育委員会    ・学生確保・入試委員会

<係業務> 7係

・学年チーム                  ・実習チーム    ・図書・視聴覚教材    ・ICT                  ・実習室・物品管理(体育館)  
・健康管理・環境衛生管理                  ・自治会

<領域別> 8領域

・基礎看護学    ・成人看護学    ・老年看護学    ・地域・在宅看護論    ・小児看護学    ・母性看護学  
・精神看護学    ・看護の統合と実践

## II 教職員による自己評価

### 1 学校評価について

当校の教職員が自校の運営状況を点検する自己評価は、平成25年3月に文部科学省生涯学習政策局通知「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に、平成29年度から開始した。

平成30年度から学校関係者評価を開始し、令和3年度からは、評価の客観性を高め、教育の充実を図るため、学校関係評価者を2名から9名に増員し評価体制を充実させた。

また、毎年、学校内部で評価した結果を報告書にまとめ、学校関係者評価委員会を開催し、客観的な視点から評価・意見等をいただいている。年度末には、自己評価及び学校関係者からの評価結果をホームページに公表している。

#### (1) 評価体制

- ・学校評価委員は学校長、教頭、事務長、教務主任の4名。必要な事項は実施要綱に定めて管理・運営している。
- ・学校関係者評価委員は実習施設から4名、教育機関から3名、卒業生代表・行政から各1名の9名体制である。

#### (2) 評価の種類

- ① 教職員が学校運営評価表を用いて学校運営全般を自己評価する「教職員による自己評価」
- ② 令和6年度 重点的に取り組むべき課題と目標（組織目標）達成に向けた取組状況を評価する「重点目標の評価」
- ③ その他、次の4つの取組みを評価
  - ・学生の学校生活満足度調査結果
  - ・公開授業「看護技術」に参加した実習指導者との意見交換、アンケート調査結果
  - ・授業参観に参加した保護者アンケート調査結果
  - ・看護職員研修（財団研修）に参加した看護職員アンケート調査結果

### 2 学校運営評価

(1) 評価項目は、大項目9個、中項目23個、小項目は60個、細項目は114個（下表参照）

(2) 評価基準は、4段階（4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切） \*細項目 R3:164→R5:114 項目同様

	大項目(9項目)	中項目(23項目)	小項目数(60)	細項目(114)
1	教育理念・目標	1) 教育理念、目的、目標の評価	1	2
		2) 将来構想の明確化	1	2
2	学生受け入れ	1) 学生募集の方法	3	5
		2) 入学選抜の方法	1	1
		3) 学生定員の量・質の充足・学生募集評価	2	3
3	学生支援	1) 学業継続の支援	5	8
		2) 社会人の支援	1	1
4	教育活動	1) 教育課程の編成	2	3
		2) 教授・学習評価過程	7	15
		3) 単位管理	1	2
		4) 指導者の確保・育成	3	6
		5) 学修成果	4	8
5	教育環境	1) 教育環境の整備	4	11
		2) 実習施設の整備	2	5
		3) 安全対策	1	2
6	学校管理・運営	1) 学校経営	2	2
		2) 組織管理	7	15
		3) 教職員の育成	2	4
		4) 卒業生の支援	1	3
		5) 評価	1	2
7	財務	1) 財務・収支	3	5
8	法令の整備	1) 法令・規程の整備	3	6
9	社会貢献	1) 社会・地域貢献	3	3

### (3) 自己評価の実施

対 象:教職員 11名(学校長除く) 内訳:教員9名、事務職員 2名

評価 基準日:11月30日

調 査 期 間:令和6年11月25日~12月6日

調 査 方 法:校内ネットワークを用い、教職員個別にデータを入力。入力データをもとに集計。

### (4) 自己評価表の集計結果

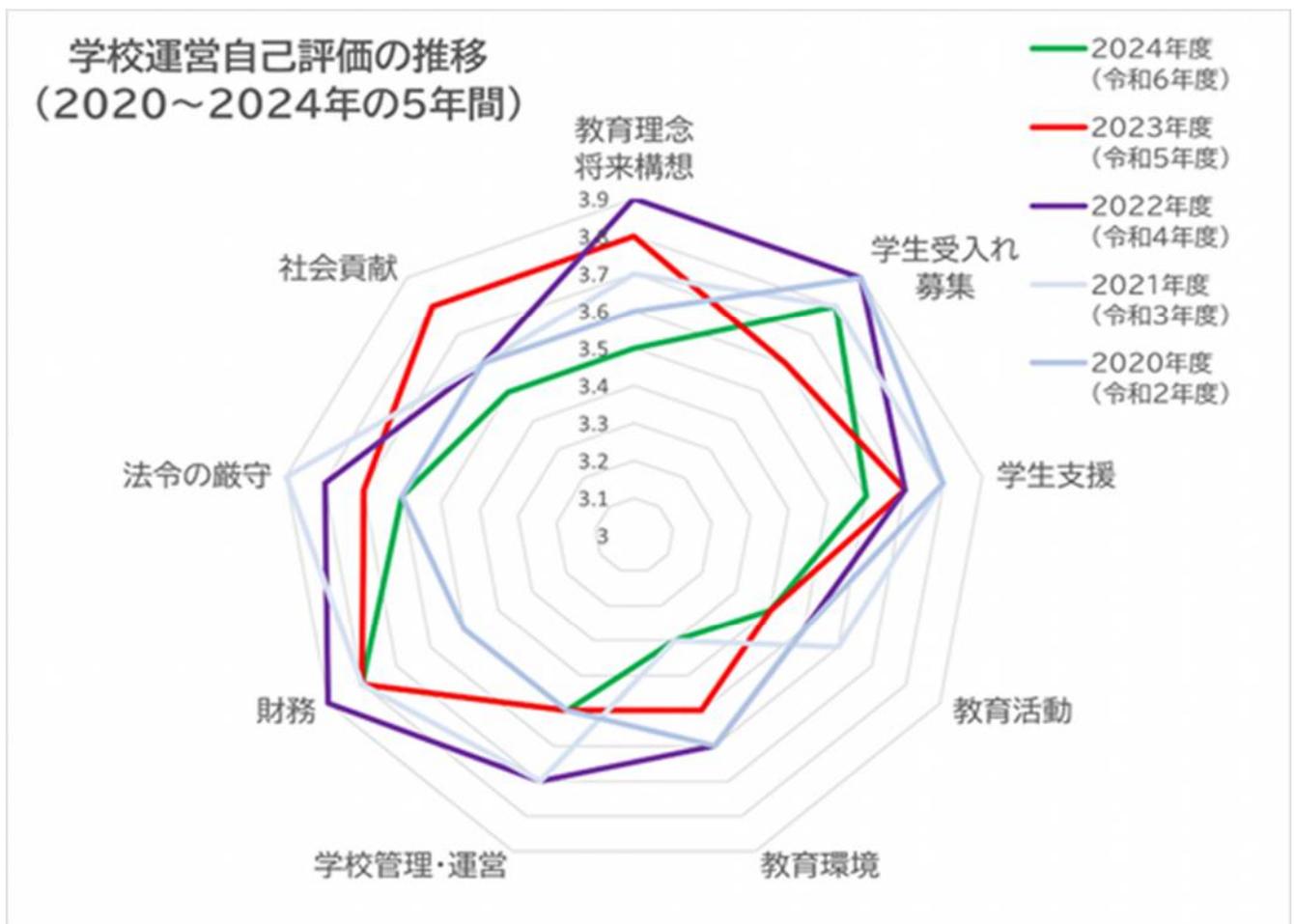
有効回答 100%

評価基準 : 4(適切) 3(ほぼ適切) 2(やや不適切) 1(不適切)

大項目	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
1 教育理念・将来構想	3.5	3.8	3.9	3.7	3.6	3.5	3.6
2 学生受入れ募集	3.8	3.6	3.9	3.8	3.9	3.8	3.9
3 学生支援	3.6	3.7	3.7	3.8	3.8	3.8	3.9
4 教育活動	3.4	3.4	3.5	3.6	3.5	3.6	3.7
5 教育環境	3.3	3.5	3.6	3.3	3.6	3.7	3.7
6 学校管理・運営	3.5	3.5	3.7	3.7	3.5	3.6	3.6
7 財務	3.8	3.8	3.9	3.8	3.5	3.7	3.4
8 法令の厳守	3.6	3.7	3.8	3.9	3.6	3.6	3.5
9 社会貢献	3.5	3.8	3.6	3.6	3.6	3.8	3.8

※評価3.3以下になると、複数教員が評価基準2以下を回答したが多いため、3.3以下の項目を分析する。

R6年度は、教育環境(3.3)と、評価3.4の(教育活動)が評価3.3に近いことから評価対象とする。



(5) 大項目の評価

大項目(評価)		前年度比較の増減の要因
1 教育理念・将来構想	3.5	<p>前年比-0.3ポイント</p> <p>年度ごとの運営目標・重点目標の設定や教員への説明はあるが、社会情勢の変化に応じた、本校の中長期的将来構想が不明瞭と捉えている教員がいる。</p>
2 学生受入れ募集	3.8	<p>前年比+0.2ポイント</p> <p>大項目で唯一ポイントが上がった。今年度は定員確保ができたこと、在学生の充足状況(休退学者が少ないこと)や、学生募集に関してオープンキャンパスに模擬授業を取り入れるなど工夫をしたことが挙げられる。一方で、少子化や医療に関心を持つ者自体が減少傾向にあることを踏まえ、小・中学生から医療への関心を高める募集活動が必要と考える。</p>
3 学生支援	3.6	<p>前年比-0.1ポイント</p> <p>「学生自治会の活動」に対する教員支援を強化したにもかかわらず、主体性を育てたいが学生がやらされ感を抱く、自治会の存在意義に疑問を抱く教員もいる。また、地域への就職支援や健康管理についての教員間の意識の薄さ・支援差を感じている教員がいる。教員間の情報共有や意見交換の少なさが影響していると考えられる。</p>
4 教育活動	3.4	<p>前年比±0ポイント</p> <p>新カリキュラム運用3年目となり、課題が見えてきた様相はあるが、小項目は全体的にポイントが上がっている。特に小項目で「授業の計画的遂行・調整」「対象者への実習協力依頼」「教育方法の工夫」3項目が0.3ポイントずつ上昇している。一方で、「人材確保・組織編制」が-0.5ポイントである。年度途中で教員の休・退職による人員減があったことや経験年数の浅い教員が多いことで、教育の質を担保できる人材が確保されているといいがたいと評価している。</p>
5 教育環境	3.3	<p>前年比-0.2ポイント</p> <p>「実習指導体制」は今年度合同会議を開催するなど、実習指導者会議の持ち方を変更したことで上昇したが、小項目「図書室の整備」「教材の整備・管理」「実習施設の整備」が0.1ポイントずつ下がっていることで、大項目も低下している。</p>
6 学校管理・運営	3.5	<p>前年比±0ポイント</p> <p>全体的に小項目のポイントは横ばいである。ただ、昨年度低値だった「職員の協働意欲」は0.2ポイントだが上昇が見られた。コミュニケーションの取りづらさは残るようだが、教員個々が接遇目標を設定し、努力している成果と考える。</p>
7 財務	3.8	<p>前年比±0ポイント</p> <p>昨年度は定員割れによる全体的な収入減が大きく影響して評価を下げたが、今年度評価は横ばいである。</p>
8 法令の厳守	3.6	<p>前年比-0.1ポイント</p> <p>諸規程は整備されているが、リスクは個人管理になっており、情報漏洩に課題が残る。</p>
9 社会貢献	3.5	<p>前年比-0.3ポイント</p> <p>ボランティア活動の復活・イベントへの参加推奨を図ったが、「学校資源の活用」や「地域交流の奨励・支援」に課題を感じている教員が多いため、ポイントが下がったと考える。</p>

## 2024年度「重点的に取り組むべき課題と目標」に関する評価：重点課題の評価

資料3

基準日：2024年11月30日

組織目標2：教職員の教育力向上及び教育内容の充実	取り組み状況と結果	課題
<p>(1) 看護技術教育の指導をとおした教育力向上及び実習指導者との連携を強化する。</p> <p>① 基礎看護学演習への全教員での参加と看護技術フェックを実施する。</p> <p>② 実習指導を効率的に進め、帰校後の事例検討時間を確保する。</p> <p>③ 教育実践力の向上するための研修に主体的に取り組み、教員間で共有する。</p>	<p>・看護技術フェックの回数は11月までに1年生2回（①ハットメイク②バリエーション測定）・2年生2回（①全身清拭・寝衣交換②バリエーション測定）を実施し、ほぼ全教員で対応した。（1月・2月に1年生2回：③全身清拭・寝衣交換④陰部洗浄・おむつ交換を予定している。）</p> <p>・実習指導については、実習チームで4月・8月に計3回学習会を設け、指導上の困りごと（記録やカフアリス指導）を共有し、解決のための方略を考えた。また、看護過程展開実習Ⅰの前には「看護過程」の理解を深める学習会を開催し、指導のポイントを統一した。</p> <p>・4月～11月にかけて、「看護形態機能学」（聖路加国際大学 大久保暢子教授）の講義を拝聴する研修を企画し、本校の日常生活援助技術等を担当する教員が参加した。12月23日に伝達講習会を開催し、研修内容を共有する予定としている。⇒ 12月23日伝達講習会実施。</p> <p>・3月に新人教員向けにシミュレーション研修を実施予定。</p>	<p>☆看護技術教育の教育力強化については、今年度技術フェックを導入し、技術フェックには可能な限り全教員でかかわることを、年度当初に意識づけしたので、ほぼ全教員がかかわることができた。しかし、教員の教育力向上に関しては、看護技術演習に至るまでの授業や準備・演習後の振り返り等を教員相互に率直に話し合う機会をもてず、教員全体として教育力の向上は図れていない。また、実習指導者との連携強化といった点も今年度は十分でなかった。実習指導者に公開授業（演習）に参加してもらっているが、実習指導に活かしてもらいたいという学校側の意図が十分に伝わっているか、演習参加後の臨地での指導への活用状況の把握はしていない。</p> <p>★次年度は教員相互に授業等について話し合える機会をもつこと、実習指導者との連携の強化（現任教育と卒後教育の連携）を課題とする。</p>
<p>(2) 新人教員の支援体制の強化（教員向け「新人」を活用した定期的な面談と研修の企画運営、カリエアの活用）</p> <p>① 全教員が「全員で新人教員を育てる」をもつ。</p> <p>② 全教員、年間最低1回以上はカリエアと面談する機会をもつ。</p> <p>【新人教員】</p> <p>① 学生カリエアと定期的面談を実施する。（1回/2ヶ月）</p> <p>② 新人教員支援計画を立案・実施する。</p> <p>③ 新人教員研修計画に基づき、積極的に対外研修に参加する。</p> <p>④ 授業や実習指導等は支援教員とともに実施する。</p> <p>⑤ 主体的な報告・連絡・相談を心がけ、心身の不調が現れるようなら早めに申し出ることができる。</p> <p>【中堅教員】</p> <p>① 学生カリエアと定期的面談を実施する。</p> <p>② 新人教員を支援する中堅教員の面談を定期的に実施する。</p> <p>③ 外部研修には積極的に参加するように支援する。</p>	<p>・新人教員の支援強化については、年度当初から「全教員が育てる意識でかかわること」やリレーション計画も含む新人教員支援計画を立て、意図的にかかわりを持つてきた。</p> <p>・年度初めは負荷をかけないよう、実習チーム配置とし、4～5月は授業作成と学校生活に慣れることを中心とし、授業計画（実施までのサポート）は教務主任が、実習指導も実習調整者とペアでおこない、実習調整者が指導・相談役としてかなりのサポートをした。</p> <p>・そのほか、教員としての役割・業務（授業資料の印刷や講師対応、学科進捗簿も確認等のこまごました業務）については2～3年目教員が、自身の経験を踏まえて助言をおこなった。</p> <p>【学生カリエアとの面談】</p> <p>・新人教員（1年目）は、4月～7月まで2回/月コスタに面談を実施した。8月以降は本人の要望に応じて面談を継続中。</p> <p>・2年目教員も4月は2回/月、5～7月は本人の要望に応じて面談を実施している。</p> <p>・計画的な面談により業務の負担感や新しい職場環境への適応状況を把握、カリエアと情報を共有したことで心身の不調なく、学校業務に適応できている。</p> <p>【新人・新任期（2年目）教員の支援】</p> <p>・4月当初、新人支援計画を立案し、運営会議・教職員会議を経て、新人教員に説明の上、実践中。</p> <p>・リレーション：着任後の4月1～2週目にかけて実施。学校行事・学校評価等は5月～7月にかけて実施。実習リレーションは学生とともに受けた。</p> <p>・研修：5月・12月 県立中央看護との合同研修 ほか、8月 医療人材課主催の新人教員研修、7月・10月 茨城県看護教員連絡会主催全体研修・教育研修、9月 当財団研修 等に参加し、教員としての見聞を広げている。</p> <p>・授業：授業計画・内容・資料等は教務主任が主に支援。計画的に自分から相談しながら指導を受け、7月から授業開始。演習科目についても教務主任に相談しながら実施している。</p> <p>・実習指導：新人教員は実習調整者とペアになり、7月の2年生看護実践実習から開始。11月看護過程展開実習Ⅰも実習調整者と2人1組で、17073人の学生を主に担当して実習指導をおこなう。2年目教員も困りごとは実習調整者に相談しながら、ほぼ独り立ちした。</p> <p>【中堅教員の支援】</p> <p>・学生カリエアとの面談を推奨。学校長等との面談は6月・10月の目標面接のほか、7月・8月・9月と気になった際におこない、話を聴いている。</p> <p>・教員連絡会等の研修に参加推奨をしているが、なかなか業務調整等がつかず参加できていない。</p>	<p>☆新人教員は赴任当初は緊張していた様子であったが、徐々に職場環境に適応し、年度後半（9月頃から）自主的に「クラス運営にかかわってみたい」との申し出があった。そのため、1・2年生のクラス運営補助を業務に追加した。</p> <p>☆新人教員の個人特性もあると思うが、積極的に教員業務を習得しようとする意欲も高く、心身の不調等なく、業務を遂行してくれている。</p> <p>☆新任期（2年目）教員も、年度当初のカリエアとの面談で、2年目不安を吐露していたようだが、徐々に実習指導も独り立ちし、新しい授業構築にも意欲的に取り組み、現在のところ心身の不調等なく業務を遂行できている。</p> <p>☆一方、中堅教員の支援については、新人教員に比べると手薄だった感がある。</p> <p>☆年度途中で中堅教員1名が休職（その後退職）、実習チーム教員がクラス運営を代行することとなり、業務変更を余儀なくされ、教員全体として業務負担が増すことになった。実習指導教員を1名確保したが、代替教員の役割までは担えず、中堅教員の支援が十分だったとはいいがたい。</p> <p>★次年度は、新人・新任教員支援とともに、中堅教員の支援を強化することを課題とする。特に中堅教員向けには、個人の能力向上研修のほかに、中堅教員の役割として人材育成のためのチーム力向上・マネジメント力育成のための研修を考えていく。</p>
<p>(3) 新カリラムの円滑な運営とカリラム評価の実施</p> <p>① 新カリラムによる領域別実習が始まるためその評価を実施する。</p> <p>② 新カリラムの完成年度のため、評価表を作成し、卒業生のカリラム評価を実施する。</p>	<p>・領域別実習の学生による実習指導に関する評価は、2024以降自由記載方式にしていたが、今年度は自由記載も残しつつ、「数値化」できる評価表に戻した。</p> <p>・5段階（5 そう思う ～ 1 まったく思わない）としたが、各領域ともすべて3.6以上の高評価を得ている。</p> <p>・カリラム評価については、教育委員会で評価表を検討し、3年生に対して卒業前に実施を予定している。</p> <p>・新カリラム3年目を迎え、授業担当者や外部講師の意見から、各分野の設定科目や科目内容、科目ごとの配当時間数や配当年次（科目配列）等に変更が必要な部分がある。</p>	<p>☆教育委員会においてカリラム評価表を作成・検討したので、卒業学年に3月に実施するとともに、教員に対してのカリラム評価もおこない、併せてカリラム全体評価をおこなう。</p> <p>★これらを踏まえて、次年度教育課程の再編纂をおこない、令和8年度から適用することを課題とする。</p>

組織目標5：組織の効率的及び効果的な運営によるワークライフバランスの推進	取り組み状況と結果	課題
<p>(1) 教員相互が教育力を高め合う環境・職場風土を構築する。</p> <p>① チーム制（学年運営チームと実習チーム）を取り入れ、チーム間で相互にコミュニケーションを図る。</p> <p>② チーム内で円滑なタスクワークができるように、タスクシェアを心がけ、声をかけあう。</p> <p>③ 教員会議の場で、建設的な意見交換ができるように各自が意識し、アサーティブなコミュニケーションを取る。</p> <p>④ お互いさま意識・相手の立場に立って考え、声をかけあう。</p> <p>⑤ ストレスチェック高ストレス該当者が前年度より改善する。</p>	<p>・学年運営チームは翌月の時間割作成等の連絡調整・外部講師対応・試験監督分担等を話し合いながら運営してきた。</p> <p>・実習チームは、毎朝、チームミーティングを実施し、その日ごとに自分がおこなう業務を報告し連携を図ってきた。それぞれのチームとしては連携を図れている。</p> <p>・コミュニケーションにしても、各自の接遇目標を掲げ、教員間も「さんづけ」で呼び合うなど、意識的にお互い声をかけあっている。</p> <p>・「雑談」を取るよう心がけ、円滑な職場環境を築くよう努め、また、職員間の人間関係に課題がありそうな状況には、校長・教頭がたびたび介入してきた。しかしながら、なかなか改善しがたい状況がある。</p> <p>・ストレスチェック高ストレス該当者は3名。（前年度5名）高ストレス者に関しては学生カリエアとの面談を義務づけ、実施した。</p> <p>・新人・新任教員へのかかわり・職場環境（お互いさま意識の醸成・職場の雰囲気）について、5段階評価（5.十分できた・良くなった 4.まあできた・やや良くなった 3.どちらともいえない 2.あまりできていない・やや悪くなった 1.できていない・悪くなった）で教員にアンケートを取った。結果は下記。</p> <p>①新人・新任教員へのかかわり：平均3.9～4.1 新人教員等を気にかけて、声をかける・相談事に乗る・離しやすい雰囲気を作る等を各教員が意識していた。</p> <p>②お互いさま意識の醸成：平均3.0～4.4 依頼・相談があったときは快く応じている一方、自分から「多重課題で困ったとき遠慮なく依頼する」「相談する」「互いの忙しさを押し測って声をかける」ことはできていない現状があった。</p> <p>③職場環境の改善：平均2.3～2.9 前年度と比較して「やや悪くなった」「悪くなった」と感じている教員が57.2%だった。「気軽に声をかけあえない」42.9%、「ともに働く仲間意識が乏しい」のは変わらないと感じる一方、「それぞれのチームがばらばら・職員室が分断されている」と感じている教員が複数いた。</p>	<p>☆それぞれのチームメンバー間は連携が図れていた。しかしながら、学年・実習それぞれのチーム間同士の連携は十分とはいえない。学校全体で学生を支援するためにも、意図的に「集まる」機会を設け、学生の情報共有を図っていく必要があり、次年度の課題としたい。</p> <p>☆また、自己評価結果においては「職員の協働意欲」について、昨年度よりは改善が見られたものの、アンケート結果からはまだまだ十分とはいいがたい。コミュニケーションも教員個々に努力はしている。しかし、職場環境改善・良好な職場環境の醸成にはまだまだ課題が大きく残る。</p> <p>★職場環境改善は単年度での達成は難しく、次年度も継続課題とする。</p>
<p>(2) 教職員の経営意識の向上及び歳出削減の意識を強化する。</p> <p>① ノー残業デーを遵守する。（毎週水曜・金曜）</p> <p>② 毎月10日間の19時閉庁を維持する。</p> <p>③ 全職員が年休10日/年、1日/月を取得する。</p> <p>④ タイムマネジメントの意識をもって、計画通りに業務を遂行する。</p>	<p>・毎月、退庁時間（ビル施錠時間）を確認しているが、5月～11月までは19時閉庁時間は毎月10日以上を維持している。（7割強が19時前に退庁している。）時間外勤務についても10時間/月を超えていない。授業準備も勤務時間内に実施している姿がある。</p> <p>・教員個々がタイムマネジメントの意識をもって業務を遂行している。</p> <p>・年休は10日/年は取得できているが、1日/月は取得できていない。</p> <p>・会議はペーパー化を継続、時間も1時間以内を心がけるなど、各教員が歳出削減・経営意識について意識している。</p>	<p>☆組織を挙げて時間外削減・定時退庁を推進してきた結果、閉庁時間の早期化が図れてきた。しかし月1日以上の子休取得は困難であった。</p> <p>★次年度は定時退庁推進を継続しつつ、年休の年10日以上並びに月半日以上の子休取得をめざし、各自が業務調整を図ることを課題とする。</p>

令和6年度 閉庁時間（割合）		
	19:00まで	19:00以降
	%	%
4月	28.6	71.4
5月	57.1	42.9
6月	70.0	30.0
7月	72.7	27.3
8月	70.6	29.4
9月	78.6	21.4
10月	77.3	22.7
11月	80.0	20.0

### Ⅲ 全体を通して

自己評価は平成 30 年度から開始し、今年で7年目となった。今年度を振り返り、下記の点を全体評価とする。

#### ① 自己点検・自己評価について

- ・自己点検・自己評価表は毎年点検し、評価項目の重複を確認しながら、細項目評価と小項目評価に大きな乖離が見られないことから、令和5年度から細項目を「評価の指標」として、「小項目」で評価している。
- ・小項目(60項目)には必要な事項が網羅されており、量的には妥当な評価ができています。

#### ② 重点的に取り組むべき課題と目標の評価

- ・令和5年度の自己評価の結果を踏まえ、組織として取り組むべき目標は複数ある中で、令和6年度は「当該年度に重点的に改善や強化して取り組むべき課題」を絞り込み、目標を設定していくこととした。
- ・今年度は、組織目標2「教員の教育力の向上及び教育内容の充実」と組織目標5「組織の効率的及び効果的な運営によるワークライフバランスの推進」とした。
- ・しかし、評価結果を見ると、まだまだ課題が大きい。
- ・特に、組織目標5の下位目標として掲げた「教員相互が教育力を高め合う環境・職場風土を構築する」に関しては、昨年度と比較して「職場環境がやや悪化した・悪化した」と感じる教員が半数を超えている。
- ・どのような対策を講じるか検討し、次年度も引き続き職場環境の改善に努めたい。

#### ③ その他

- ・「学生満足度調査」「臨地実習指導者への公開授業(演習の参加)」「保護者への授業公開と保護者」「財団研修」の取り組みは、毎年実施している事業である。実施内容及び実施・評価については別添の添付資料を参照されたい。
- ・学生や学校外(実習指導者や保護者)からの意見は、本校の課題や今後の方向性を検討する際の参考になり、概ね高評価を得ている。
- ・また、経年的に比較することにより、本校の現状分析や課題が明確になるため、継続して評価していく。

本校は、令和7年度は開校して33年目を迎える。新カリキュラムも運用4年目になる。

学校運営に関して、学生や保護者、外部の方々からの貴重なご意見をいただきながら、本校がさらに地域医療に貢献し、ますます発展していけるよう取り組んでいきたい。

# 添付資料

資料1 令和6年度組織目標

重点的に取り組むべき課題と目標

資料2-① 組織図

2-② 職務分掌

2-③ 委員会・領域別担当の取り組み状況

2-④ 学生生活満足度調査の結果

2-⑤ 公開授業実施後のアンケート結果

2-⑥ 授業参観に参加した保護者アンケート結果

2-⑦ 保護者会のアンケート結果

2-⑧ 看護職員研修(財団研修)アンケート結果

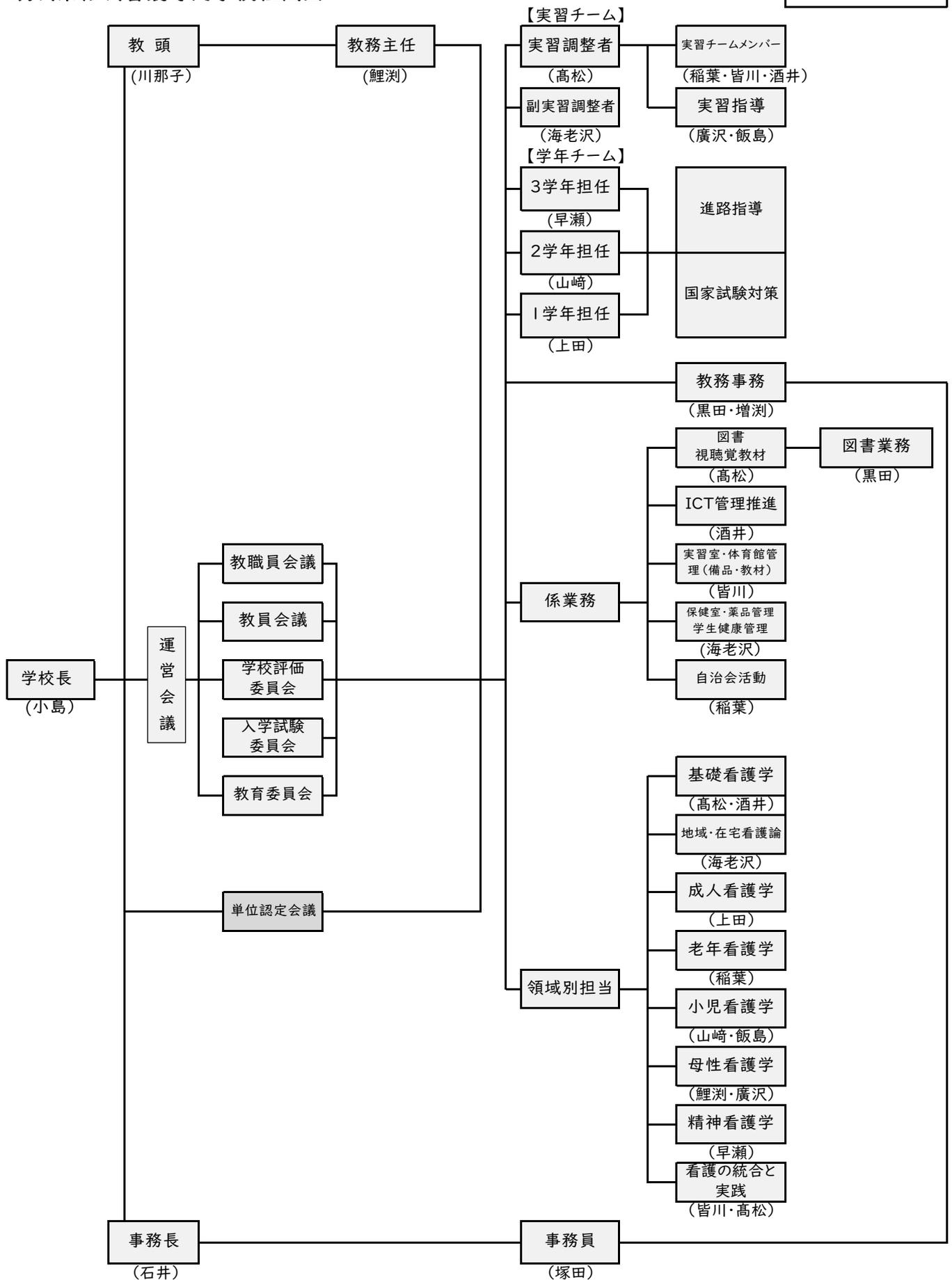
資料3 自己点検・自己評価表(全体結果)

資料4 令和6年度 年間学校行事

茨城県結城看護専門学校組織図

令和6年4月1日

添付資料2-①



# 令和6年度職務分掌

令和6年4月1日現在

茨城県結城看護専門学校

担当	分担事務	主担当	副担当
校長	校務の掌理及び、職員の指揮監督に関すること。 学生募集(高校・施設訪問)に関すること	学校長 小島 朋子	教頭 川那子 清美
教頭	1 校長の補佐及び校務の整理に関すること 2 組織目標・評価に関すること 3 学校の運営・評価に関すること 4 教員の組織編成に関すること 5 教員の指導・監督に関すること 6 教員の育成に関すること 7 関係機関との連絡調整に関すること 8 運営会議及び教職員会議の運営に関すること 9 学生募集(進路ガイダンス)に関すること 10 入学試験の運営に関すること 11 財団研修の企画・運営に関すること 12 学生相談に関すること 13 規程・規則等の検討に関すること 14 その他、特に命じられたこと	教頭 川那子 清美	事務長 石井 智之  教務主任 鯉淵 久子
教務主任	1 教務の総括に関すること 2 教育計画及び調整、進行管理に関すること(国家試験対策を含む) 3 教育課程の編成に関すること 4 講師の確保及び授業依頼に関すること 5 時間割調整(外部講師)に関すること 6 外部講師の対応に関すること 7 教員の授業評価に関すること 8 教員会議、実習指導者会議の運営に関すること 9 学籍簿及び教育に関する記録の管理に関すること 10 学校行事(就職説明会・入学前ガイダンス・公開授業・学校説明会)の企画・運営に関すること 11 国家試験対策の運営に関すること 12 感染症対策に関する対応・学生指導 13 他に属さない教育事項に関すること 14 その他、特に命じられたこと	教務主任 鯉淵 久子	実習調整者 高松 理絵
実習調整者	1 実習施設との連絡調整に関すること 2 実習計画及び学生配置の調整に関すること 3 実習評価に関すること 4 実習要項の編成に関すること 5 実習指導者会議の企画・運営に関すること 6 実習に必要な教育環境の整備に関すること 7 実習に係る感染症対策・実習調整 8 他に属さない教育事項に関すること	実習調整者 高松 理絵	副実習調整者 海老沢 佳代  教務主任 鯉淵 久子

# 令和6年度職務分掌

令和6年4月1日現在

茨城県結城看護専門学校

担当	分担事務	主担当	副担当
学年業務	1 3学年の運営・管理に関すること	専任教員 ◎ 早瀬 恵子 山崎 紀久子 上田 麻衣子	
	2 時間割調整(内部教員)に関すること		
	3 外部講師の対応及び連絡調整に関すること		
	4 授業(講義・演習・実習)の進捗管理に関すること		
	5 実習学生の配置計画に関すること		
	6 授業評価の実施に関すること		
	7 学生の指導・監督に関すること(保護者対応を含む)		
	8 学生の就職・進路指導に関すること		
	9 学生の休学・退学などに関すること		
	10 国家試験対策の企画・運営・指導に関すること		
	11 学籍簿・実習記録等教育に係る記録・点検・保管に関すること		
	12 学生の健康管理・指導に関すること		
	13 クラス費の管理に関すること		
	14 入学試験の実施に関すること		
	15 学校行事(教科外活動に類するもの)の実施に関すること		
	16 他に属さない教育事項に関すること		
領域担当	1 基礎看護学	高松 理絵	酒井 一成
	2 地域・在宅看護論	海老沢 佳代	
	3 成人看護学	上田 麻衣子	
	4 老年看護学	稲葉 奈緒美	
	5 小児看護学	山崎 紀久子	飯島 房枝
	6 母性看護学	鯉淵 久子	廣沢 美由季
	7 精神看護学	早瀬 恵子	
	8 看護の統合と実践	皆川 かおり	高松 理絵
係業務	1 図書・視聴覚教材(映像以外のコンテンツ選定含)管理に関すること	高松 理絵	
	2 ICT機材の整備・管理に関すること	酒井 一成	
	3 実習室・体育用具の整備・管理に関すること	皆川 かおり	
	4 学生の健康管理, 保健室管理など環境衛生管理・エコライフに関すること	海老沢 佳代	
	5 自治会運営・指導に関すること	稲葉 奈緒美	
教務事務	別紙参照	黒田 美智子	増淵 恵子
司書	別紙参照	黒田 美智子	

## <委員会>

学校評価委員会:◎教頭、教務主任、事務長、学校長

学生確保・入試委員会:◎教頭、教務主任、事務長、学校長

教育委員会:◎教頭、教務主任、実習調整者、学年担任、学校長

# 各係・委員会・領域別担当業務の取組状況

## 添付資料 2-③

\* 最終評価は 3 月 1 日基準として評価予定

係	計画(5月)*目標と対策	中間評価(10月)*目標に対する評価
1 学年チーム	<p>目標1.各学年の授業のつながりを意識したかきょう運営ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回、年間時間割をもとに内部教員の受持つ科目の実施時期と他関連科目の時期の確認。</li> <li>・内部教員間で繋がりのある科目について教育内容を検討。</li> </ul> <p>目標2.3年間の国家試験対策のペースづくり(見える化)ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の国家試験対策のゴールを検討し3年間の国試対策のペースを作成。</li> </ul>	<p>目標1.4・6月に話し合いを実施した。月1回の話し合いはできていない。できる範囲で実施していく。</p> <p>目標2.臨床判断とフィジカルケアのつながりを検討した。8月に国家試験対策のゴール検討を予定したがメンバー変更があり未実施。今年度中の作成をめざし調整する。</p>
2 実習チーム	<p>目標1.実習チームとして機能できるようメンバー間の連携を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の役割を意識しながら業務遂行しお互いの状況に気を配る。</li> <li>・実習指導に関するお互いの悩みを共有しながら、チーム全体で課題解決に努める。</li> </ul> <p>目標2.臨地実習における教員の教育力向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生理解や実習指導の示唆が得られるよう、月1回程度の学習会やカフェリスを開催。</li> <li>・新人教員をサポートする体制を整え、新人教員が主体的に実習指導に取り組めるよう支援を行う。</li> </ul> <p>目標3.実習施設と連携を図りながら、学生の实習環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回合同会議を開催し、臨地実習における悩みや課題について指導者とともに話し合う。</li> <li>・実習施設側から学校側への要望を募り、学校側ができることを検討。</li> <li>・学校側から実習施設側にも要望を伝え、実習施設とともに学生の実習環境を整備する。</li> </ul>	<p>目標1.毎朝ミーティングを行い各自の業務を把握するとともに、お互いの進捗状況にも気を配っている。適宜コミュニケーションを取りながら、実習指導に関する悩みを共有するよう努めている。</p> <p>目標2.前期は、チームミーティングを3回、学習会を3回実施。今後も継続予定。また新人教員をサポートできるような教員配置とし、後期は新人教員が自立するよう支援する。</p> <p>目標3.6月に合同会議を実施。11月の合同会議に向けて準備を進めている。実習や合同会議の際に、学校側への要望を募るとともに、学校側から実習施設側にも要望を伝え、学生にとって学びやすい環境になるよう調整している。</p>
3 図書・視聴覚教材	<p>目標1.学生がルールを守って図書室を利用できるよう、図書委員とともに学生へ働きかけ、紛失0をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵書が不足している分野や学生からの希望をもとに、購入図書を検討。</li> <li>・図書の除籍を進めるとともに、学生が図書を手に取りやすい図書の配列を工夫する。</li> <li>・図書委員の活動を推進し、図書委員の活動内容を検討する。</li> <li>・学生が本に関心を持てるよう、ゆき図書館から一般図書の貸出をする。</li> </ul> <p>目標2.映像以外の内容や学生の利用状況を踏まえながら、コンテンツの選定を行う。</p>	<p>目標1.前期に蔵書点検を行い、紛失本はなかった。</p> <p>新規図書2冊の購入希望があり、学生からの希望も含めて購入図書を検討した。また、339冊の除籍を行い、古い図書は上段へ、活用頻度の高い図書は下段へと配列を変更。学生が本を探しやすいよう見出しを追加。</p> <p>図書委員の活動内容を見直し、月1回活動中。しかし、全員が集まらない現状もあり、各自が責任を持って活動するよう、働きかける。今年度から、ゆき図書館から一般図書の貸し出しを行っている。</p> <p>目標2.今後コンテンツの選定を行う予定。</p>
4 ICT	<p>目標1.新年度の教員用教科書の更新が講義開始前に終了できる。</p> <p>目標2.新入生・在校生の電子教科書・映像以外の設定が講義前に終了できる。</p> <p>目標3.入学ガイダンスで学校のPCの使い方・電子書籍の使い方説明が終了できる</p> <p>目標4.財団研修・就職説明会等学校主催の学校主催でのオンラインやハイブリッド形式で実施する際に、必要な機器の管理を行い滞りなく実施できる。</p> <p>目標5.学校ホームページを事務の方と相談し、学校の情報を発信する。</p>	<p>目標1.4月上旬に終了。</p> <p>目標2.電子教科書・映像以外の設定を講義前に実施。現段階までで、学生の授業や実習にトラブルなし。</p> <p>目標3.4月上旬にパソコンの使い方、電子書籍の説明を実施。現段階まででトラブル等はない。</p> <p>目標4.6月より学校ホームページ内にブログを追加。演習等がある際は、撮影の協力をもらいながら、学校の情報を発信している。</p> <p>目標5.9/28の財団研修は、昨年度の経験を聞きながら準備、実施した。機材トラブルなく、終了。</p>
5 実習室・物品管理(体育館)	<p>目標1.実習室内の物品管理が定期的な実施できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物品管理表で現物確認ができていないものを、実習室内再確認。(8月、12月)</li> <li>・演習担当者で連携し、必要物品の追加、補充、購入に関して検討する。</li> <li>・演習の実施状況を確認し、リネ類を清潔に保つ。(クリーニング年2回程度)</li> </ul> <p>目標2.「実習室の使い方」の冊子を基に、学生が正しく実習室が使用できるような状況を把握できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新1年生に実習室の使用方法について、オリエンテーションをする。(4月)</li> <li>・学年の実習室係と連携を図り、演習前の身だしなみ、実習室の使用状況を確認</li> </ul>	<p>目標1.物品管理表で、実習室内の物品を一部確認できたが、全体としては実施できなかった。12月までに実習室担当の学生と物品の確認、整理をする。教務主任と購入した物品の情報を共有し、物の配置を検討中。廃棄物も今後検討。リネ類(シーツ、枕カバー、包布)は5月、8月にクリーニング済。今後も演習の状況を確認しながらリネ類を清潔に保っていく。</p> <p>目標2.1年生に実習室オリエンテーションを実施し(4月12日)、実習室の使用方法や身だしなみについて説明した。</p> <p>各学年の演習参加時に、実習室係と協力し演習開始前の</p>

係	計画(5月)*目標と対策	中間評価(10月)*目標に対する評価
	<p>する。</p> <p>目標3.体育館の器具、物品の数や破損状況の把握ができる。</p> <p>・年3回(7月、12月、3月)委員会時に物品の整理整頓を行い、物品数や破損状況を把握する。必要なものがあれば購入を検討する。</p>	<p>身だしなみを確認。身だしなみが整わず、実習室に入室してから準備している学生には声をかけた。すべての演習に入ることはできないが、可能な限りで身だしなみを整える必要性を伝えていく。</p> <p>目標3.体育館の物品整理は、昨年度末実施以来確認していない。12月委員会時に学生と確認する。</p>
6 健康管理・環境衛生	<p>目標1.学生が自己の健康管理について考えて行動できるように支援する。</p> <p>・入学時健康が「ダ」を実施し、医療従事者となる自己の健康管理を意識づける。</p> <p>・健康診断の結果、必要時の受診行動を促し、結果を把握する。</p> <p>・前期に校医との連絡調整し、該当の学生の健康行動をとれるよう促す。</p> <p>・学生が計画的に予防接種を勧められるよう、学年担当者と協力し働きかけ年度末には終了させる。</p> <p>目標2.学生が過ごしやすい環境を意識し、適切な行動をとれる。</p> <p>・保健委員と協力し、保健室の清掃・物品の点検・管理を実施する。(救急箱、冷蔵庫の保冷剤、AED含む)</p> <p>・環境整備委員と協力し校内の環境美化・清掃状況を適宜確認し、必要時は指導する。(掲示物、ごみの始末、清掃物品の管理を含む)</p> <p>・エコ委員と協力し、学校内の電気設備・エアコンの適切な使用と節電行動をとれるよう指導する。</p>	<p>目標1.1年生を対象とした入学時が「ダ」時に健康が「ダ」を実施。すべての学生が健康診断を受診した。要精密者は夏休み中の受診を勧奨、要観察者等については校医と相談し対応した。睡眠時間調査も全学生に実施し校医に報告済。インフルエンザ 予防接種は現在希望を取り、稲葉医院と調整のうえ、接種完了。1.2年生のワクチン接種は各担任と協力をして実施を進めている。</p> <p>目標2.保健室の清掃・物品の点検実施。夏季休暇前は3学年が揃わないため、冬期休暇前に布団干しや洗濯を実施する。校内美化に対しては定期的に巡視を行い、教室やごみ箱の清潔が保てない状況があるときはその都度学生に指導を行った。エコ委員を中心に校内資源の節約に努めた。高電力警報が鳴った時にはできるだけ節約に心がけて対処した。</p>
7 自治会活動	<p>目標1.自治会役員が自治会活動を具体的に考え、振り返ることができる。</p> <p>・学習の1つの活動としての意味を考えられるように意図的に関わる。</p> <p>・役員1人ひとりに役割の意識をもってもらえるように関わりをしていく。</p> <p>・学年を越えて報告・連絡・相談できるように助言をしていく。</p> <p>目標2.自治会役員が行事の対象となる学年のことを考え企画運営できる。</p> <p>・行事を行う際の企画(内容、時間、資金)について指導、助言を行う。また、急遽行事内容が変更になることも考え、代替案は考えておくよう指導する。</p> <p>目標3.自治会則を変更する。</p> <p>・現在の学校生活、行事に合わせて役員と内容を見直し変更を行う。</p>	<p>目標1.自治会活動が何かということを理解できず、教員側からのやらされている感が出ていたため、学生が中心の活動の意味を説明した。また、中心となる2年生の自治会役員が、昨年度の引継ぎが不足しており、活動に支障をきたしていた。学生同士で話し合えるように各学年役員に指導中。</p> <p>目標2.行事に関しては、対象学年がどのようなことを企画すれば喜ぶか、また、学生同士も交流を図れるかを考えるよう指導している。自分の学年だけがよければいいと考えることもあるため、全学年の自治会役員と話す機会を作っている。学生だけでの運営が難しい場合は教員も介入している。</p> <p>目標3.4月の総会に合わせて、自治会則を変更した。変更後会則で今年度は取り組み、必要であれば再度会則の見直しを図る。</p>

領域	計画(5月)*目標と対策	中間評価(10月)*目標に対する評価
1 基礎看護学	<p>目標1.学生が主体的に学び、基礎看護技術の習得ができるよう支援できる。</p> <p>・基礎看護技術の演習内容や教授方法について、教員間で話し合う。</p> <p>・演習後は教員間で振り返る機会を持ち情報共有や今後の課題を抽出する。</p> <p>・校内と実習の学びをつなげられるよう、演習や技術フェスは全教員で臨む。</p> <p>目標2.基礎看護学実習の実習内容や方法を検討し、実施できる。</p> <p>・一貫した内容・方法で臨地実習指導ができるよう、教員間の情報共有に努める。</p> <p>・実習後には振り返りを行い、次年度に向けての課題を抽出する。</p> <p>・次年度に向けた課題をもとに、実習要領を修正する。</p>	<p>目標1.演習内容や教授方法は、教員会議や打ち合わせの場で話し合いをしている。演習後は教員間で振り返りを行い、情報共有や今後の課題を抽出している。技術フェスは全教員で参加しているが、演習は各教員の都合(実習指導や授業等)で、全教員参加が難しい。</p> <p>目標2.教員間で共通認識を図れるよう、担当教員が参加できる日にオリエンテーションの日程を組んでいる。教員会議や合否判定会議の際に統一した指導・評価ができるよう、情報共有に努めている。実習後は担当者間で振り返りを行い、次年度に向けての課題を抽出している段階。</p> <p>次年度に向けた課題をもとに、実習要領を修正していく予定である。</p>

領域	計画(5月)*目標と対策	中間評価(10月)*目標に対する評価
2 地域・在宅看護論	<p>目標 1. 新カリキュラムになり初めての実習を展開し、目的・目標の達成状況を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休暇前と最終領域終了後の2回、評価の振り返りを行う。前期の評価を実習チーム会議等で報告し、後期の実習指導に活かす。</li> <li>・地域・在宅看護論での実習施設の合同会議を3月に実施する。</li> </ul> <p>目標 2. 地域・在宅看護論の教育課程から実習までの学習内容を振り返り、内容の検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育内容・講義・演習・実習という学習の積み重ねの授業内容を確認し、学生が地域・在宅看護において学ぶべき内容が網羅されているか確認する。</li> <li>・修正が必要であれば、8月までに1回目の修正案を完成させる。12月には完成を目標とする。</li> </ul>	<p>目標 1. 夏季休業時に合同会議に向け、前半の評価を集計用紙に入力した。結果分析はできていないので、領域実習終了後に分析する。合同会議は3月の開催に向け準備中。</p> <p>目標 2. 教育課程・実習要領を含めて検討中。8月までに修正案を決定できていない。後期に十分時間をかけて根拠を明確にして検討予定。特に地域包括ケアシステムと地域包括支援センターに関しては丁寧に検討する。</p>
3 成人看護学	<p>目標 1. 成人看護学実習の評価を実施し、実習要項の見直しにつなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員間で実習方法や指導方法を共有し、要項内容の不足や検討箇所の追加・修正を適宜行う。</li> <li>・企業における看護師の役割を理解できるよう、新施設の検討をする。</li> </ul> <p>目標 2. 成人看護学援助論での学習内容(検査・治療・処置)と、臨地実習で経験が得られる内容を確認し、実習内容の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多施設での実施となるため、前期・後期で評価を実施する。</li> <li>・評価内容を実習指導者会議で報告し、指導者と連携を図り、学生の学習内容につなげる。</li> </ul> <p>目標 3. 成人期の理解、かつ、健康の保持・増進の理解が深まるよう、他教科とのつながりのある講義を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連する科目での学習進度や内容を把握し講義内容を計画する。</li> <li>・成人期の対象を想像できるよう支援する。</li> </ul>	<p>目標 1. 学生の学習修得状況(病院・健診協会)を把握し、教員・臨地実習指導者が共に指導内容を共通理解できるよう検討が必要。後期は丁寧に実習評価を実施し、検討を継続する。</p> <p>目標 2. 指導者会議で、学生アンケートを活用した指導者側へ学生の現状の報告を実施した。学生の修得状況と指導状況を確認し、今後の実習内容の充実が図れるよう後期も検討を継続する。</p> <p>目標 3. 現在、講義が始まったばかりであり、関係法規Ⅰや公衆衛生といった科目との関連性を考慮した講義を実施予定。また、成人期の学習は、指導技術なども関連させていきたいと考えるので後期も継続する。</p>
4 老年看護学	<p>目標 1. 新カリキュラムとしての実習を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み前までの実習については8月中に振り返りを行う。</li> <li>・夏休み後の実習については9月中には終了するため、その後に振り返りを実施し、3月には施設側との振り返りを実施する。</li> </ul> <p>目標 2. 実習要領の内容、変更がある場合には12月までに行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度より時間数が少なくなっているため、学生の学びの状況を確認しつつ、施設側とも協議を持ち検討する。</li> </ul> <p>目標 3. 自己の老年観に目を向ける実習ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習指導では実習中に感じた思いを表出できるよう関わる。</li> </ul>	<p>目標 1. 夏休み前の実習については、8月中に施設側と振り返りを実施。また夏休み後の実習も滞りなく終了。今後全体の振り返りを行い、施設側とも振り返りを実施する。</p> <p>目標 2. 実習時間数が減っているため、昨年度より実習指導に出向く時間はやや増やしている。学びの不足部分はタリに助言・指導を行っている。施設側の指導者とも学びの不足部分に関しては調整し、翌日には不足部分の介入ができるよう指導いただいた。</p> <p>目標 3. 学生は実習中に色々と感じていることはあるが、言語化ができなかったり、その時だけにどまってしまうことがある。自分の言葉で語ってもらえるように「なぜそう感じたのか?」と問うかわりを意図的にしている。最終カファリスで自己の老年観を語りあえるようにしている。</p>
5 小児看護学	<p>目標 1. 新カリキュラムでの小児看護学実習における内容・方法について評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の学生の学習状況を踏まえて、小児看護学実習の実習内容について数的評価を行う。</li> </ul> <p>目標 2. 病院や施設における対象の理解と看護師の役割や他職種連携の学びを深めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習指導者と協力し、子どもや家族への援助場面の見学や対象者がいない場合は実際の場面に相当する説明を受けるなど体験できる状況を作る。</li> <li>・学内でシミュレーションに沿ったレベルシミュレーション・デモンストラクションが行えるよう指導する。</li> <li>・看護師以外の他職種から指導が受けられるよう、カファリス等で関わる。</li> </ul> <p>目標 3. 自己の小児観を深めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持った子どもについてのグループ学習が深められるよう指導する。</li> </ul>	<p>目標 1. 現在、小児実習が継続中のため数的評価はできていない。全実習終了後、各評価項目の点数を確認し、評価点が低い部分は、実習内容の見直しをする。</p> <p>目標 2. 入院患児は少数だったが、患児と関われるように指導者と調整した。指導者の学童期の患児へのアプローチ(全身麻酔や術直後の状況)の見学、医師から家族への退院後の注意事項の説明、退院指導のパンフレットの作成、説明等、発達段階を踏まえた看護の重要性の理解につながった。保育園・重心施設で保育士からの助言で病院以外の子供へ関心が広がった。</p> <p>目標 3. 今年度から各施設で受け持った子どものテーマ別意見交換と、小児看護マップ作成を取り入れたことで、小児特有の看護に対して関心が広がった。後期も継続。</p>

領域	計画(5月)*目標と対策	中間評価(10月)*目標に対する評価
6 母性看護学	<p>目標1. 講義と実習が結びつくような実習展開ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習始めに事前学習を用いて基礎知識の理解を確認し、学内演習から実習への動機づけをする。</li> <li>・実習での学びが国家試験に結びつくように発問等で思考を促す。</li> <li>・実習でかかわれなかった部分は学びの共有を図り理解に繋げる。</li> </ul> <p>目標2. 実習要領の見直しを12月末までに実施する。</p> <p>目標3. 新規施設の承認申請をおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規施設の施設状況を9月までに確認し、実習調整を図る。</li> <li>・新規施設の承認紳士性を11月までにする。</li> </ul>	<p>目標1. 事前学習を実習に結びつけ、実習での体験と発問をとおして意図的につなげたことで理解が深まった。実習での体験が少ないME装着やモーターの判断等は実物を見せながら学習を支援した。</p> <p>目標2. 実習要領は後期に実施予定。</p> <p>目標3. 新規施設の見学を4・5月に行い、実習の概要説明をした。申請内容の確認を10月後半におこない、申請書類の作成を行う。(⇒11月申請作業終了・12月に承認がおりた。)</p>
7 精神看護学	<p>目標1. 新カリキュラムでの実習を円滑な実施と評価ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者・スタッフと関係性を構築し、情報共有や連携に努める。</li> <li>・指導者会議(年2回)で学生の学びの成果をもとにより良い教育方法について検討する。</li> </ul> <p>目標2. 学生の精神看護学への理解が促進するよう支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心できる実習環境を提供する。</li> <li>・講義内容と実習体験につなげた指導を実施する。</li> </ul>	<p>目標1. 個々の学生やグループ課題などを共有し、指導方法の統一を測りながら実習指導を実施。今後も継続。前期指導者会議で、新カリキュラムにおける実習方法を踏まえた話し合いが行えた。前期の実習が終了し、評価表等に変更が必要。</p> <p>目標2. 個々の学生の特性に合わせて指導や、学生のケア・セッションの維持に努めるとともに、学内の時間を活用し、講義内容をもとに知識の確認をした。今後も継続。</p>
8 看護の統合と実践	<p>目標1. 既習学習・臨地実習での学びを活かし、対象に合わせた看護実践能力を向上することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラムでの既習内容を臨床指導者と情報共有する。</li> <li>・各学生の学習状況を臨床指導者、実習担当教員と共有し、学生個々に応じた指導を継続する。</li> <li>・看護実践で判断し行動する根拠が、対象を多角的に捉えた思考となるよう指導できる。</li> <li>・看護チームにおける自己の役割を認識し、多職種と連携し協働する意味を理解できる。</li> </ul> <p>目標2. 看護の統合と実践実習の実習要領を検討し、実施することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一貫した内容・方法で実習指導ができるよう、教員・指導者間の情報共有に努める。</li> <li>・実習後には振り返りを行い、今後に向けての課題を抽出する。</li> </ul>	<p>目標1. 看護の統合と実践実習は領域VI、VIIのため、現在未実施。実習前に刈込で詳細を説明する。実習指導者と連携を図りながら、学生個々に応じた指導を行う。</p> <p>目標2. 実習要領が完成し、各実習施設の実習指導者会議に参加、統合実習の説明をおこなった。教員・指導者間で情報共有に努め、一貫した内容・方法での指導をめざす。実習後には振り返りを行い、次年度に向けての課題を抽出する。</p>

委員会	計画(5月)*目標と対策	中間評価(10月)*目標に対する評価
1 教育委員会	<p>目標1. 看護技術フェックの実施と評価をおこない、チェックリストを修正する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護技術フェック(2年生・1年生)実施ごとに振り返りをおこなう。</li> <li>・隔月で開催予定の教育委員会でチェックリストを修正する。</li> </ul> <p>目標2. OSCEの実施について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価する内容・実施体制・チェックリスト等</li> </ul> <p>目標3. カリキュラム評価を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム評価のための評価表等を作成し、今年度の卒業生に実施する。</li> <li>・令和7年度卒業生の就業施設のカリキュラム評価のアンケートを実施するための準備を進める。</li> </ul> <p>目標4. シミュレーション教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内部教員のシミュレーション教育の実施状況把握(演習等での取り組み状況確認)</li> <li>・シミュレーション教育推進のための研修を企画・実施する。</li> </ul>	<p>目標1. 2年生5月実施の技術フェックは振り返り・チェックリストの修正終了。1年生の技術フェックは後期に実施予定。</p> <p>目標2. 12月の実施に向け、授業担当者と実施内容・実施体制・評価内容・チェックリスト等を検討中。</p> <p>目標3. カリキュラム評価のためのアンケート等を作成中。意見を募り、11月・1月の教育委員会で決定し3月実施予定。R7年度に卒業生の就業施設のカリキュラム評価のアンケートについても同時に検討中。</p> <p>目標4. 内部教員のシミュレーション教育実施状況は未確認。後期に確認する。後期に全教員にシミュレーション研修を受ける機会を計画する。</p>
2 学校評価委員会	<p>目標1. 令和5年度の課題から設定した重点的に取り組むべき課題に対して取り組みを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価を年間計画に基づき、実施する。</li> <li>・評価項目の見直し・評価材料の検討・教職員への周知を5月中に実施。</li> <li>・学校関係者評価委員会を年2回開催する。(6月下旬・2月下旬)</li> <li>・学校評価の結果を年度内に取りまとめ公表する。</li> <li>・学校評価結果から次年度の課題を抽出、重点目標の設定・対策を立案する。</li> </ul>	<p>目標1. 年間スケジュールを立案し、6月に外部関係者に委員委嘱。7月に第1回学校関係者評価委員会を開催し、今年度の計画・重点的に取り組む課題と目標、公開授業(演習)予定を案内した。また、授業公開(保護者会併用開催)を10月に案内した。8月、自己点検自己評価表・学生満足度調査表を見直し、11月に学生満足度調査と自己点検自己評価を実施し、結果をまとめた。2月に委員会予定</p>

委員会	計画(5月)*目標と対策	中間評価(10月)*目標に対する評価
3 学生確保・入試委員会	<p>目標1.新制度を含む入学試験を年間スケジュールに基づき遅滞なく進め、定員を40名確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各高等学校等の本校への動向を確認しながら、次年度の入試制度・募集要項の検討を10月から開始する。</li> <li>・2月末までに募集要項の作成を起案まで終了する。</li> <li>・進学ガイダンスの依頼は断らずに参加し、学校説明会(オープンキャンパス)は学生の関心を引く内容で実施する。(模擬授業を取り入れる。)</li> <li>・HPのブログを継続する。(学校行事等をタイムリに更新する。)-&gt;学生の1日をリニューアルする。</li> <li>・入学生の確保状況に応じて、追加の入試が必要であれば早めに検討する。(12月末日の確保状況で)</li> </ul>	<p>目標1.次年度の入試制度・募集要項の検討は、10月の指定校推薦入試・11月の公募制推薦入試の出願状況から検討していく。</p> <p>⇒10月指定校制推薦、11月公募制推薦・学士社会人①入試の出願状況・合格状況から、一般(第2回)・学士社会人(第3回)入試の実施を決定し、12月上旬HPで公表・周知した。</p> <p>進学ガイダンスの依頼は断らずに参加しているが、高校の実施自体が減っており、前年に比べて約6割減。</p> <p>(R6 7校14名 ← R5 10校34名 前年比41.2%)</p> <p>学校説明会(オープンキャンパス)は模擬授業を取り入れ、高校生に看護学校の学習のイメージがつかうよう工夫した。ただ参加人数はR5年に比べて約3割減(R6 139名 ← R5 181名 (9月実施分まで) 前年比76.8%)</p> <p>HPブログは継続中。学校行事等はタイムリに更新中。「学生の1日」リニューアルは未着手。</p>

# 令和6年度 学生生活満足度調査 結果

添付資料2-④

- 1 調査における構成要素
  - 1) 学校の使命である「教育」に対する学生の満足度
  - 2) その教育をハード面から支える「施設・設備」に対する学生の満足度
  - 3) その教育をソフト面から支える「心身・社会的な学生支援」に対する満足度
  - 4) 学校生活を通じた人との良好な関係形成、自己成長に繋がる機会など、総合的な満足度
- 2 項目と質問内容
 

評価尺度：不十分(1)、やや不十分(2)、どちらとも言えない(3)、やや十分(4)、十分(5)
- 3 調査期間：令和6年11月25日～12月13日
- 4 調査方法：Googleフォーム アンケート
- 5 回答率：全体 78.4%
 

(111名中 87名 1年生:77.5%、2年生:73.5%、3年生:83.8%)

青字：前年度よりポイントアップ 赤字：前年度よりポイントダウン  
 (↑↓：前年度より0.5ポイント以上 アップ・ダウン)

項目	質問内容	R6年 項目平均 ( )はR5	R6年 小項目	R5年 小項目
1 教育	① カリキュラムの <b>科目構成</b> は適切だと思いますか。	3.9 (3.9)	4.1	4.2
	② <b>時間割</b> は履修しやすく設定されていると思いますか。		3.9	3.8
	③ 教員の <b>講義</b> は理解しやすいと思いますか。		3.8	3.6
	④ 教員の <b>演習</b> は理解しやすいと思いますか。		3.9	3.9
	⑤ 教員の <b>実習指導</b> は理解しやすいと思いますか。		3.7	3.9
2 施設 ・ 設備	⑥ <b>教室</b> の照明・空調・音響機器の設備は整備されていると思いますか。	4.1 (4.1)	3.7	3.8
	⑦ <b>看護実習室</b> の室内設備・使用上の環境は整備されていると思いますか。		4.0	4.0
	⑧ <b>ゼミ室</b> 等の室内設備・使用上の環境は整備されているか		4.1	4.0
	⑨ <b>体育館</b> の設備・使用上の環境は整備されていると思いますか。		4.2	4.1
	⑩ <b>学生ホール</b> の設備・使用上の環境は整備されていると思いますか。		4.1	4.1
	⑪ <b>図書室</b> の学習スペース・図書の貸出・蔵書数・種類等は整備されていると思いますか。		4.2	4.5
3 学生 支援	⑫ 学内で <b>交友関係を広げる機会</b> はありますか。	4.0 (4.1)	3.9	3.7
	⑬ <b>昼食環境・移動販売</b> の環境に満足していますか		3.8 ↓	4.3
	⑭ 健康診断など <b>健康面の支援体制</b> に満足していますか。		4.1	4.4
	⑮ カウンセラーによる <b>精神面の支援体制</b> に満足していますか。		4.1	4.3
	⑯ 教員との面談による <b>学習・メンタル面の支援体制</b> に満足していますか。		3.9	3.7
	⑰ <b>就職支援</b> の情報の充実さ・担当者からの <b>支援体制</b> に満足していますか。		3.8	3.9
	⑱ <b>国家試験対策</b> の取り組み・ <b>支援体制</b> に満足していますか。		4.1	4.1
	⑲ 修学資金・奨学金制度の紹介や授業料等の納付金の徴収猶予等の支援体制は満足していますか		4.1	4.2
	⑳ 各種 <b>事務手続き</b> や <b>窓口対応</b> に満足していますか。		4.2	4.4
	4 学 校 生 活		㉑ 看護師に <b>必要な知識・技術・態度</b> を学んでいると思いますか。	4.3 (4.2)
学校生活を通じて、 <b>教職員・友人等との出会いが人としての成長</b> につながっていると思いますか。		4.3	4.3	
学校生活を通じて、 <b>看護職をめざす者として成長できていると実感</b> できていますか。		4.4	4.4	
学校生活を通じて、 <b>将来のキャリアプラン</b> を描けるようになっていますか。		4.3	4.1	
総合的にみて、本校の <b>学びや学校生活</b> に満足していますか。		4.1	4.0	
平均			4.0	4.1

## 保護者会の結果

## (1) 戴帽式後保護者会【第1学年】

①日時: 令和6年10月8日(火) 15時30分~16時 場所: 図書室 参加人数: 20人

②内容:

- ・本校の看護教育の現状(年間スケジュール含)
- ・学校生活について(在籍学生背景と現状、学習震度状況、出席状況、クラスの指導目標)
- ・国家試験対策、公開授業(授業参観)の案内

③アンケート結果:

&lt;戴帽式の感想&gt; 大変良かった(17人) 良かった(3人)

- ・戴帽式での素晴らしい姿を見られて感動した。(8人)
- ・初めてのなので感動した。ろうそくの灯が美しかった。
- ・幻想的な雰囲気の中で看護への決意ができたと思った。
- ・すてきな式だった。
- ・とてもなつかしかった。
- ・自分たちの言葉での誓いがよかった。
- ・節目ということで看護の誓いが見られてよかった。
- ・普段見られない姿を見れて看護師になるのかと実感できた。
- ・しっかりと看護師になりたいという意欲・決意を感じることができた。

&lt;保護者会の感想&gt; 大変良かった(9人) 良かった(10人) あまり良くなかった(1人)

- ・生活の様子、今後の予定が聞けてよかった。(3人)
- ・学校生活を確認することができた。(2人)
- ・現状が知れてよかった。(2人)
- ・学校の方針が具体的にわかった。
- ・細かい説明があったが、それも文面にしてほしい。
- ・私語の多い保護者は注意したほうがいいのでは。
- ・他の保護者とのコミュニケーションがとれた。親同士の交流が持てる。(2人)
- ・教頭先生の話はいつも大変わかりやすく現在と今後の状況を理解することができた。

&lt;その他 学校への意見&gt;

- ・図書室にカビ臭があり苦しかった。なんか対応していただけるとありがたい。学生でアレルギーとかもあるのでは?

## (2) 公開授業前保護者会

【第1学年】

①日時: 令和7年1月17日(金) 13時~13時30分 場所: 図書室 参加人数: 10人

②内容:

- ・1学年現在の学習状況と今後の学習予定(令和7年度 2年次実習スケジュール含)
- ・臨地実習への協力依頼
- ・看護師国家試験について
  - 出題形式・時間・近年の出題傾向・合格基準・受験者数と合格率の推移等
  - 第114回看護師国家試験日程(令和7年2月実施)
  - 本校の看護師国家試験対策について

③アンケート結果:

&lt;内容&gt;: 良かった(7人) 必要性は感じない(2人) 無記入(1人)

&lt;感想&gt;

- ・今の状況がわかり、今後の説明を受け、対策につなげられる。(2人)
- ・子どもとの普段の学習について話し合えるような内容を話していただけたから。

&lt;次年度以降、公開授業があったら参加してみたいですか&gt;

	人数
①ぜひ参加してみたい	4
②時間があえば参加したい	6
③どちらともいえない	1
④参加したくない	0

&lt;開催時期等への要望&gt;

- ・他の授業等の様子も見学したい。
- ・家庭内でのコミュニケーションの際に、様子がわかると会話が増えるので、できれば参加していきたい。
- ・金曜日の午後の開催は助かる。しかし、開催時間が13:00は早すぎて間に合わない。せめて13:30してほしい。

## 【第2学年】

①日時:令和6年11月25日(月) 13時~13時30分 場所:会議室 参加人数:4人

### ②内容:

- ・2学年現在の学習状況(履修状況)と今後の学習予定(令和7年度3年次実習スケジュール含)
- ・就職活動について(就職先の制限:推薦入学者、就職先の選定と就職活動)
- ・臨地実習への協力依頼
- ・看護師国家試験について  
出題形式・時間・近年の出題傾向・合格基準・受験者数と合格率の推移等  
第114回看護師国家試験日程(令和7年2月実施)  
本校の看護師国家試験対策について

### ③アンケート結果:

<内容>:良かった(2人) 必要性は感じない(0人) 無記入(2人)

#### <感想>

- ・学習内容やこれからの予定を詳しく説明いただいた。
- ・今後の流れ、学習予定がわかってよかった。(2人)

<次年度以降、公開授業があったら参加してみたいですか>

	人数
①ぜひ参加してみたい	1
②時間があえば参加したい	3
③どちらともいえない	0
④参加したくない	0

## 【第3学年】

①日時:令和6年12月6日(金) 14時45分~15時15分 場所:会議室 参加人数:2人

### ②内容:

- ・3学年現在の学習状況(履修状況)と今後の予定(卒業までのスケジュール)
- ・看護師国家試験について  
出題形式・時間・近年の出題傾向・合格基準・受験者数と合格率の推移等  
第114回看護師国家試験日程(令和7年2月実施):試験会場・宿泊先・宿泊先までの移動等  
これからの看護師国家試験対策について(1~2月の国家試験強化対策)

### ③アンケート結果:

<内容>:良かった(2人) 必要性は感じない(0人)

#### <感想>

- ・国家試験についての具体的な話を聴くことができてよかった。
- ・具体的な話を聴くことができ、国家試験までのイメージがついた。

### 【上記結果を受けての評価】

- ・1年生の保護者会は「入学式後」「戴帽式後」そして「公開授業後」と、年3回実施している。目的は、看護基礎教育の理解を深めてもらうこと、保護者との連携協力体制を強化することによって、年々難化する看護師国家試験の合格・看護師資格取得への支援をともにこなしてもらうことにある。
- ・平日にもかかわらず保護者の参加が多い(10名)ことやアンケートの結果から、保護者が学生の学習状況や今後の学習スケジュール等を知りたいというニーズが高いことがわかる。
- ・ただ、保護者の授業参観・保護者会参加率は、1年次は高いが、2年次・3年次になると低減し、今年度も2年次・3年次の参加者は少数である。
- ・アンケート結果から、保護者としては2年次以降も日程が合えば授業参観や保護者会に参加したい意向がある。①早めに公開授業や保護者会の計画を立て、保護者会開催の目的も踏まえて案内する ②参加しやすい金曜日の午後、14:00~15:00頃開催する 等方法等を検討し、参加を推奨していきたい。
- ・また、1年次の段階から、学業継続・看護師国家資格取得までの過程を伝え、学校と家族の協力体制の必要性や保護者会の目的を伝えつつ、2年次・3年次もできるだけ参加をしていただけるよう依頼していく。
- ・さらに、自立・自律した看護師育成をめざすうえで、保護者との連携は欠かせない。高等教育となる専門学校教育・専門職(看護師)養成機関の教育に関しての情報を、保護者にもこまめに提供しながら、「自ら考え、自ら動ける」ようになるための家庭での働きかけについても協力を依頼していく。

## 授業参観に参加した保護者アンケート調査

### (1) 授業参観開催の目的

学校評価における授業評価は「わかる授業」をめざし、学校組織として多面的・多角的に授業を評価することで、学校全体の授業改善につなげる目的がある。また、保護者に対して、どのような授業が実施されているか公開することは、看護の学習への理解を深め、家庭と学校の連携協力体制を構築するうえでも重要である。

さらに、看護師養成所での教育を保護者に理解してもらうことによって、年々難化している看護師国家試験への対策や、学生の家庭での学習の動機づけを強化してもらうことにつながる。

令和2～4年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、入学式・戴帽式の縮小・授業公開や保護者会の開催を見合わせや縮小実施などで対応してきた。令和5年度は5月に新型コロナウイルスが感染症法第5類への移行とともに、学校行事等も新型コロナウイルス感染拡大前の状況に少しずつ戻し、1・2学年の保護者対象の授業公開及び保護者会を再開した。

今年度は、全学年に授業公開及び保護者会を開催し、保護者からの意見を授業評価に活用するとともに、保護者の看護基礎教育への理解と学習支援のために協力を得ることとした。

### (2) 内容・方法・結果 (\*各学年ごと記載)

対象学年・日時・授業内容・ねらい

#### 【1年生(32回生)】 ※ 時間内に自由に来校・参観してもらう。

期 日： 令和6年10月4日(金)13:30～15:00

科 目： 日常生活援助技術(洗髪)

昨年度の、看護技術の公開授業は「診療の補助」(静脈内注射)だった。しかし、針を扱う授業であったことで学生の緊張が強く、安全を配慮した実施が難しい中での公開授業になった。そこで今年度は「療養上の世話」(洗髪)の技術とした。清潔の技術は肌の露出が多く、見学には適さないことが多いが、清潔の援助の中でも、洗髪は肌の露出が少ないこと、看護援助では患者に喜ばれることが多い技術である。

結 果： (参加人数・アンケート結果) 申し込み：2人、参加：2人・アンケート回収2人

#### 1. 参加理由

- |                           |    |
|---------------------------|----|
| ①養成所での教育に興味があった           | 0人 |
| ②どんな内容の学習をしているのか知りたかった    | 1人 |
| ③授業風景を見てみたかった(学習態度を見たかった) | 1人 |
| ④看護師養成所の授業雰囲気を味わいたかった     | 0人 |

#### 2. 授業公開の実施について

- |           |    |
|-----------|----|
| ①良い企画だと思う | 2人 |
| ②必要性は感じない | 0人 |

#### 3. 次年度以降、開催があったら参加したいですか

- |              |    |
|--------------|----|
| ①ぜひ参加したい     | 1人 |
| ②時間が合えば参加したい | 1人 |
| ③どちらともいえない   | 0人 |
| ④参加したくない     | 0人 |

#### 【自由記載】

・子どもがどんな授業を受けているか見てみたかった。また友達関係や授業態度もわかるため。

対象学年・日時・授業内容・ねらい

#### 【1年生(32回生)】 ※ 授業参観前30分程度で保護者会開催

期 日： 令和7年1月17日(金)13:00～16:25

科 目： 看護の基礎となる地域演習Ⅱ

新カリキュラムから地域で暮らす人々と家族の暮らしを理解し、人々が支え合い生活している対象を理解することが強化された。本科目では実際に地域で働く医療者から話を伺いGWで学習を深めている。保護者には、本校も地域に支援をもらいながら看護教育が行われていることを知ってもらい、これから専門領域の学習が開始し地域の実習病院で学習を受け入れてもらっていることを理解してもらうとともに、看護教育内容の理解を深め、2年生からの学習の重要性と支援を依頼する。

結果:(参加人数・アンケート結果) 申し込み:10名 参加:10名	
<b>1. 参加理由</b> ①養成所での教育に興味があった 9人 ②どんな内容の学習をしているのか知りたかった 8人 ③授業風景を見てみたかった(学習態度を見たかった) 8人 ④看護師養成所の授業雰囲気を知りたい 1人 ⑤家族(子どもや配偶者等)に参加を勧められた 0人	<b>2. 授業公開の実施について</b> ①良い企画だと思う 10人 ②必要性は感じない 0人 <b>3. 次年度以降、開催があったら参加したいですか</b> ①ぜひ参加したい 4人 ②時間が合えば参加したい 6人 ③どちらともいえない 1人 ④参加したくない 0人
<b>【自由記載】</b> 家族内でのコミュニケーションの際、様子がわかることで会話が増える。授業内容を見学したい。別の授業も見たい。	
対象学年・日時・授業内容・ねらい	
<b>【2年生(31回生)】 ※ 授業参観前30分程度で保護者会開催</b> 令和6年11月25日(月)13:15~15:40 科目:看護を総合する技術「指導技術」(個別指導・小集団指導) 2年生は、これから領域別実習が開始するにあたり、対象を受け持ち、対象の健康問題を捉え、疾病を抱えながら日常生活を送る対象の教育・指導する場面が出てくる。本科目では、GWをとおして、対象のニーズにあった指導計画を立案し、効果的な指導内容を学習する。保護者には、学生が実習前に対象への指導技術の演習風景を見学し、模擬での患者の支援が看護の役割であることも理解してもらう。	
結果:(参加人数・アンケート結果) 申し込み:4名 参加:4名	
<b>1. 参加理由 (※複数回答)</b> ①養成所での教育に興味があった 1人 ②どんな内容の学習をしているのか知りたかった 3人 ③授業風景を見てみたかった(学習態度を見たかった) 2人 ④看護師養成所の授業雰囲気を味わいたかった 1人 ⑤家族(子どもや配偶者等)に参加を勧められた 1人 <b>2. 授業公開の実施について</b> ①良い企画だと思う 4人 ②必要性は感じない 0人	<b>3. 次年度以降、開催があったら参加したいですか</b> ①ぜひ参加したい 1人 ②時間が合えば参加したい 3人 ③どちらともいえない 0人 ④参加したくない 0人 <b>4. 保護者会の開催について</b> ①よかった 2人 ②必要性は感じない 0人
<b>【自由記載】</b> ・指導技術だったので勉強になった。いろいろ勉強になった。 ・子どもがどのような学習態度なのか、学校での様子が見れてよかった。(2) ・保護者会は今後の流れ(学習内容や予定)がわかってよかった。(2) ・スライド(スクリーン)が薄くて見えづらかった。(3)⇒初任ボード等に記載したほうがよい。せっかく作成したスライドが見えづらくてもったいない。 ・どのグループも堂々と発表していてすばらしかった。 ・‘対象に適した看護’の発表なので、最初にどのような対象に対する指導なのか、もう少し具体的な設定があってもよかったかも。パンフレットは医療用語ではなくもっとわかりやすい言葉や患者に説明するときはもと患者用のパンフレットで説明してもよいのかなと思った。	
対象学年・日時・授業内容・ねらい	
<b>【3年生(30回生)】 ※ 授業参観前30分程度で保護者会開催</b> 期 日: 令和6年12月6日(金)14:45~15:45 科 目: 教科外活動:国家試験対策ゼミ 3年生は、実習が終わり国家試験に向けての学習が本格化する。保護者には、国家試験に向けての本校の学習支援の取り組みと、外部業者の国家試験対策ゼミでの学生の様子を見てもらう。さらに、保護者会では看護師国家試験の現状を説明し、冬季休業以降、国家試験までの支援へ協力体制を依頼する。	

結果：(参加人数・アンケート結果) 申し込み:2人 参加:2人

1. 参加理由 ※ 2人とも無回答 (保護者会のみ参加のため)

- ① 養成所での教育に興味があった
- ② どんな内容の学習をしているのか知りたかった
- ③ 授業風景を見てみたかった(学習態度を見たかった)
- ④ 看護師養成所の授業雰囲気を知りたかった
- ⑤ 家族(子どもや配偶者等)に参加を勧められた

2. 授業公開の実施について ※ 2人とも無回答  
(保護者会のみ参加のため)

- ① 良い企画だと思う
- ② 必要性は感じない

3. 次年度以降、開催があったら参加したいですか

※ 2人とも無回答 (保護者会のみ参加のため)

- ① ぜひ参加したい
- ② 時間が合えば参加したい
- ③ どちらともいえない
- ④ 参加したくない

4. 保護者会の開催について

- ① よかった 2人
- ② 必要性は感じない 0人

【自由記載】

- ・国家試験についての具体的な話が聞くことができてよかった。
- ・具体的な話が聞くことができ国試までのイメージがわいた。

【上記結果を受けての評価】

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染が感染症法第5類に移行し、徐々に生活もコロナ感染症拡大前の状況に戻ってきたことを踏まえ、学校行事も感染拡大前に戻してきた。
- ・各学年で授業公開と保護者会を開催した。昨年度は演習公開の要望があり、洗髪の演習を公開したが、参加者は少なかった。年度によって保護者の関心の高低や、仕事を持っている保護者が多い中、参加のための日程調整のむずかしさもあるものと思われる。
- ・看護専門学校での学習や生活については、保護者の看護基礎教育の理解・協力を得るために不可欠と考える。
- ・特に3年生は今年度、実習も終了し、本格的な看護師国家試験に向かう重要な時期に開催した。近年の国家試験の合格の現状や合格するための本校の取り組みを伝え、併せて、保護者と連携協力体制のもと、支援したい旨を伝える良い機会となる。参加者は少なかったが、アンケート結果によると、国家試験に向かう時期の保護者会としては効果的であったと考える。
- ・保護者の関心の高さや時期・内容を検討し、引き続き次年度以降も保護者への授業公開や保護者会を実施していく。

## 看護職員研修(財団研修)に参加した看護職員のアンケート結果

### (1) 研修企画の基本的な考え方

茨城県看護教育財団研修は、看護師養成及び茨城県西地域の病院、診療所、看護学校等に従事している看護職員を対象に、看護実践力及びサービスの質の向上を目的に、開校当時から実施している研修事業である。

研修内容は、厚生労働省の第6回看護基礎教育検討会(平成30年10月26日)で示された「看護師に求められる5つの看護実践能力(Iヒューマンケアの基本的な能力、II根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力、III健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力、IVケア環境とチーム体制を理解し活用する能力、V専門職者として研鑽し続ける基本能力)」及び平成29年に日本看護協会が標準化した「看護師のクリニカルラダー」を基に、社会や地域の看護職員のニーズ、医療機関等の実情を勘案して企画している。

### (2) 今年度の研修のねらい

日本看護協会「看護師の倫理綱領」の条文(8項)には「看護職は、常に、個人の責任として継続学習による能力の開発・維持・向上に努める」と掲げられている。看護専門職としての資質を向上させるために、継続して学び続けることが社会に対する責務となっている。

今年度は、ますます加速する少子化の中、「看護」を自身の業(なりわい)として選択し、看護師として地域医療に貢献しようという意欲をもった人材を、いかに地域で育て、就業が継続するように支援するかを焦点に研修を企画した。コロナ禍で臨地実習もままならず、人とかかわることが制限された中で看護師になった新人や、コロナ対応で疲弊し、それでも看護師を続けている方々へのエールを込めて、コロナ禍(まさに災いとなった)で失われつつある「看護の本質」「教育の本質」を今一度見直す機会とした。

(3) 主催 公益財団法人茨城県看護教育財団(茨城県結城看護専門学校)及び公益社団法人茨城県看護協会(筑西下妻地区)合同研修

(4) 日時 令和6年9月28日(土)13:15~16:45(研修180分、オリエンテーション・質疑応答30分)

(5) 方法 茨城県看護協会・当財団との合同研修

対面及びオンラインによる研修(学校から発信、受講場所(施設、看護協会個人会員は在宅か学校内会場)  
\*今年度はオンライン配信なし。

(6) テーマ 「教育から『共育』へ」～今、あらためて「看護を教えること」の本質を問い直す～

(7) 講師 目黒 悟 氏 (元藤沢市教育文化センター主任研究員)

(8) 対象者 県西地域の看護職員及び看護教育関係者(筑西・下妻保健医療圏、古河・坂東保健医療圏)  
申し込み者:100名(内訳;会場:88名、オンライン:12名)

(9) 受講者 93名(実績値) (内訳;会場:85名、オンライン:8名)

### (10) アンケート結果

①回収率:69.9%(65人/93人)

②年齢:

30歳未満	31~35歳	36~40歳	41~45歳	46~50歳	51~55歳	56歳以上
9.2%	2.3%	6.9%	24.6%	12.3%	18.5%	26.2%

③受講回数:

今回初めて	毎年	5回未満	5回以上
43.1%	27.7%	16.9%	12.3%

④勤務年数:

10年未満	11~15年	16~20年	21~30年	31~40年	41年以上
18.5%	9.2%	21.5%	24.6%	24.6%	1.6%

⑤職種:看護師 72.3% 准看護師 3.0% 助産師 1.6% 看護教員 23.1% (保健師・介護職はなし)

⑥勤務先:

【病院・診療所】 43人

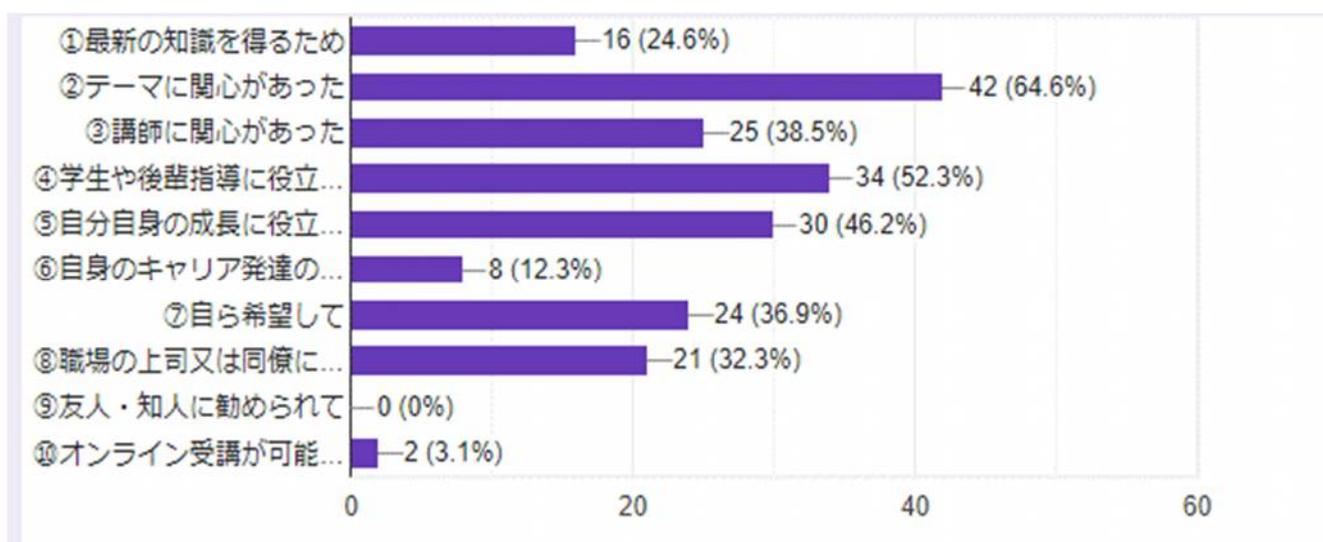
無床	20~199床	200~299床	300~399床	400床以上
3人(7.0%)	23人(53.5%)	10人(23.3%)	2人(4.6%)	5人(11.6%)

【病院・診療所以外】 24人

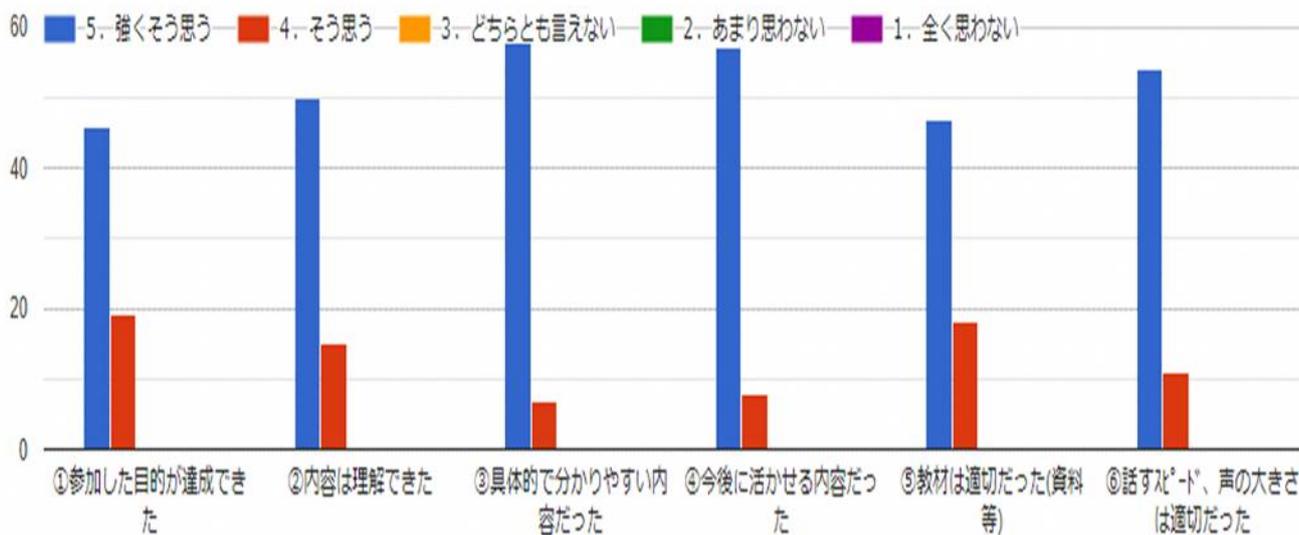
訪問看護ステーション	保健所・保健センター	介護老人保険施設	看護学校・教育機関
2人(8.3%)	0	4人(16.7%)	18人(75.0%)

⑦研修の受講動機 ※複数回答

最新知識の獲得	テーマに関心があった	講師に関心があった	学生・後輩指導に役立つ	自身の成長につながる	自身のキャリア発達	自らの希望	上司・同僚の勧め	友人・知人の勧め	オンライン受講可
16人 (24.6%)	42人 (64.6%)	23人 (52.3%)	34人 (52.3%)	30人 (46.2%)	8人 (12.3%)	24人 (36.9%)	21人 (32.3%)	0	2人 (3.1%)



⑧研修内容 ※複数回答



## ⑨感想等

- ・とても有意義な研修だった。
- ・楽しく受講できた。
- ・講師の説明がとても楽しく、わかりやすくてよかった。
- ・教育から共育に考え方を变えていく必要性が重要で和えることを強く感じた。職場のみんなにも聴いてほしい内容だった。実践に活かせる、とても良い研修だった。
- ・初心に還ることができた。また、授業の進め方等、参考になった。
- ・楽しく最後まで聴けて教育・指導について考えることができた。
- ・教育をする立場についてあらためて考えさせられる内容だった。次年度の新人、現任教育について考えているタイミングであり、本日の内容を念頭に置きながら再度考えていきたいと思う。非常に勉強になった。
- ・講師にお会いするのは初めてだった。出だしが今までの講師のイメージとはちょっと違っていたので驚いたが講義はとてもわかりやすく、いろいろと考えさせられることが多かった。講義後にさっそく出版されている本も購入した。また目黒先生の講義を受けたい。
- ・以前、目黒先生の講義を受けたことがある。機会があればまた受講したいと思っていたところ、今回の機会に恵まれた。コロナ禍を経て、看護教育について改めて考える時間となった。ありがとうございました。
- ・惜しみなく教える、惜しみなく患者を見る が共育という関係になれると素敵だと思った。
- ・看護学生や新入職者への教育・指導を看護に置き換えて考えるということが、とても腑に落ちた。あらためて、自身の指導を振り返り、今後どうしていけばよいか考える機会となった。
- ・臨指をしているが、はっとさせられた場面もあり、あらためて今後に向けて自分を見直すいい機会となった。
- ・不妊専門のクリニックに所属している。入職する看護師の年数は1年未満から10年目とさまざま、指導者として動いてもらう看護師も専門分野での勤務は初めてのため、ラダーを活用しながら評価をおこない、指導者を決めている。しかしさまざまな経験年数の背景を持つために、指導に困難を要していた。今回の研修に参加し、看護師ひとり一人に合わせた指導をしていけるように努力していきたい。
- ・楽しく話を聴かせていただき、看護学生の講義をおこなっているのも、やり方等を検討したい。
- ・新人教育に携わっており、今回の研修に参加させていただいた。「指導が指導になるとき・ならないとき」「不足に気づかせる」のところでは、はっとさせられる思いだった。
- ・楽しい講義だった。コロナになっていないか、自分を振り返る機会になった。
- ・研修時間は長いほうだったが、時間を気にせず満足感が得られた。

### 【上記結果を受けての評価】

- ・本研修は開校当初から開始し、今年度で32回目を迎えた。受講者は述べ3,600名にのぼる。
- ・令和3年度から、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、対面及びオンラインとのハイブリッド方式で開催し、さらに、県西地域医療機関・施設等に勤務する看護職対象の研修であるため、オンデマンド配信とすることで、受講率を上げてきた。
- ・昨年度のアンケート結果から「オンライン・オンデマンド配信があると受講しやすい」ことが明らかになったが、今年度は、講師の強い希望で「対面」を主とした開催となった。オンライン受講については、講師に頼み込んで了承いただき、結果として、100名を超える受講希望があり、93名が受講できた。
- ・今年度は、講師の希望で講演時間が「3時間」となった。研修としては長いのではないかと感じたが、アンケート結果から「時間の長さを感じさせない」研修となった。講演内容への関心の高さもあったと思うが、講師の話の巧みさとメリハリの利いた、聴衆を飽きさせない話題の振り方・講演の進め方であったことで、受講者の満足の得られる結果となった。
- ・定期的に目黒氏の講演を希望する声もあり、講師の人気の高さを物語る。
- ・今後も地域医療機関・施設等の看護職に寄与できる研修を企画し、より多くの看護職の方の受講を推奨するためには、オンライン併用・オンデマンド配信を実施していきたい。
- ・次年度も、茨城県看護協会筑西・下妻地区との合同研修として、県西地域の医療・看護に具体的に活用できる研修・地域の看護職に還元できる研修を企画・運営していきたい。そのためには地域医療機関・施設の看護部等に研修ニーズを聴き、テーマや講師を選定していく。

## 公開授業の実施結果

## (1) 基礎看護技術演習等の公開授業の目的

本校では、平成27年度から、専任教員の看護実践能力及び教育実践能力の向上を目的として、看護技術演習の授業を、実習施設の実習指導者が見学する「見学型」公開授業を実施している。さらに、令和2年度からは、学生のディベットの把握や現在の看護技術の方法などの理解を目的に、実習で実施する機会が多い看護技術や新人教育で実施する看護技術の演習に、指導者が直接指導を実施する「参加型」公開授業を実施している。

授業実施後は、実習指導者と意見交換を行い、客観的な意見をいただくとともに、アンケート結果等を参考に授業評価を行っている。他者からの多面的・客観的評価を受けることで、教授方法の改善や看護実践力の向上につながっている。

一方で、実習指導者からは、学生のディベットの理解や臨地での指導方法の検討につながった等の意見をいただき、双方での効果的・発展的な意見交換の場になっている。

## (2) 授業計画

	月日	時間	教科目・内容	教員	見学型	参加型
1	7月22日(月)	13:15~16:25	日常生活援助技術Ⅲ(移送)	稲葉	○	-
2	8月26日(月)	13:15~16:25	看護の基本となる技術Ⅰ(バイタルサイン)	早瀬	○	○
3	9月2日(月)	9:00~11:25	日常生活援助技術Ⅰ(全身清拭)	上田	○	-
4	9月11日(水)	13:15~16:25	健康状態別看護Ⅱ(採血)	酒井	○	○
5	9月27日(金)	13:15~14:45	日常生活援助技術Ⅰ(陰部洗浄)	上田	○	○
6	10月22日(火)	13:15~14:45	看護の基本となる技術Ⅱ(フィジカルアセスメント:腹部聴診打診)	稲葉	○	-
7	10月25日(金)	13:15~14:45	看護の基本となる技術Ⅲ-2(看護過程:事例アセスメント発表)	高松	○	-
8	10月29日(火)	13:15~15:40	看護と薬理(アンプルカット)	酒井	○	-
9	11月7日(木)	9:00~11:25	日常生活援助技術Ⅲ(床上排泄)	皆川	○	-
10	11月25日(月)	13:15~16:25	日常生活援助技術Ⅲ(おむつ交換)	皆川	○	○
11	12月13日(金)	13:15~15:40	日常生活援助技術Ⅱ(導尿)	皆川	○	-
12	1月9日(木)	9:00~12:10	看護と薬理(筋肉注射)	酒井	○	-

## (3) 案内施設:臨地実習施設等

## ○見学型

種類	施設名	案内施設数
病院	城西病院、結城病院、友愛記念病院、ホピ <sup>ル</sup> 刈坂東、古河赤十字病院、茨城県西部メディカルセンター、茨城西南医療センター病院、筑波記念病院	8病院
老健・老福施設	介護老人保健施設すばる、特別養護老人ホームしらとり	2施設
訪問看護ステーション	愛美園・春風・ゆいナースステーション・筑西診療所訪問看護ステーション	4施設
他	結城市健康増進センター	1施設

○参加型：古河赤十字病院・友愛記念病院の2施設

## (4) 結果 ・各授業終了後にアンケートと意見交換会を実施した。 (\*1月10日現在の参加状況)

参加授業及び人数	内容(参加人数)		
見学型:延25人	バイタルサイン:3人(県西部メディカル1) (城西2)	全身清拭:3人(県西部メディカル1) (結城2)	採血:2人(城西1・結城1)
	陰部洗浄:3人(県西部メディカル1) (結城2)	フィジカル:1人(城西)	看護過程:5人(県西部メディカル1) (結城2・城西2)
	アンプルカット:2人(城西2)	おむつ交換:1人(県西部メディカル)	導尿:4人(県西部メディカル1) (城西3)
	筋肉注射:1人(結城)		
参加型:延5人	バイタルサイン:2人(古河2)	陰部洗浄:2人(古河2)	おむつ交換:1人(友愛)

参加理由(複数回答) ※参加型・見学型の区別なし アンケート回収 26人分				
①看護基礎教育で行われている学習(演習)に興味があった	13人(50.0%)			
②今後の学生指導に活かしたい	18人(69.2%)			
③学生のレディネスを把握したい	2人(7.7%)			
④自分の看護技術を振り返る機会にしたい	2人(7.7%)			
⑤上司に勧められた	13人(50.0%)			
演習の進め方	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
①演習の時間配分は適切だった	21人(80.8%)	5人(19.2%)	-	-
②演習の学生の反応をみながら進められていた	24人(92.3%)	2人(7.7%)	-	-
③資料は実習にも活用できるものだった	26人(100%)	0	-	-
④学生は演習に真剣に参加していた	17人(65.4%)	9人(34.6%)	-	-
⑤演習は実習指導に役立つ内容だった	21人(80.8%)	5人(19.2%)	-	-
看護技術演習公開授業(参加型・見学型)の実施について				
①よい企画だと思う 23人(88.5%) ②必要性は感じない 0人 ※ 無回答 3人	<b>【意見】</b> ・学生の普段の様子・現状がわかって良かった。(6) ・実習指導に役立つ。実習でかかわりやすくなる。(4) ・指導していくうえで、学校でどんな学習がされているのか把握できた。(4) ・どんな雰囲気で行われているか知ることができた。(3) ・学生の教育(演習)風景を見学することでその学びを実習につなげられるようなかかわり方について知れた。(2) ・学校の技術演習の内容を理解する機会になった。 ・臨床でも統一した指導ができる。 ・病棟で忘れがちな細かい部分を振り返る機会になった。 ・実習施設であるため学生の顔が事前に確認できる機会となってよい。 ・臨床経験から説明ができた。(アブ ルット) ・アセスメントを学ぶ授業は臨地実習で使う資料などが共有できてよいと思った。(看護過程)			
自由記載 *( )は参加した演習	・演習前にシジジ・針・アブ ルなど一度触れる機会があってもよかったと思う。(アブ ルット) ・シジジの持ち方など事前にやっておけばもっとスムーズにできたのではないかと。(アブ ルット) ・グループ内での役割分担(マイナス・サ ナー・チェッカー等)はあるか。(外陰部洗浄) ・一連の流れを1回見てから実践するとイメージしやすいかと思った。(外陰部洗浄) ・実施者の動き・対応をよく見ないで雑談が見られる学生もいた。(バ イルザイン) ・他の学生が演習中の際の私語が気になった。メバ ー内で情報共有できている場面は見られてよかったと思う。(バ イルザイン) ・身だしなみが整っていない学生もいたので今後に期待したい。(バ イルザイン) ・教員の声のかけ方から効果的なグループ学習ができるような指導について学べた。(自分の番が終わった学生にも積極的に発言できる場を設けることで学生内での会話が增えた)(筋肉注射)			
意見・感想 *( )は参加した演習	・現在の学生の姿がわかりよかった。(おむつ交換) ・貴重な機会をありがとうございました。また機会があったら参加したい。(おむつ交換) ・現在の学生の演習での様子、演習方法を知ることができてよかった。(外陰部洗浄) ・学生の頃を思い出しながら、自分も振り返りをしながら授業を受けることができてよかった。(全身清拭) ・自分が学生だった頃を思い出して、再度自分自身の看護力を見直していきたいと思った。(全身清拭) ・演習で学生がどんな点に悩んでおこなっているのか理解できてよかった。実習での参考になった。(全身清拭) ・一緒に参加することで学生が不得意とするところ、考えが少し見えたような気がした。安全・安楽に関しては在学中にしっかり意識しておこなうことで、臨床に出てからの患者さんへの苦痛の軽減や事故防止が図れると思った。(バ イルザイン) ・手技・方法の確認はさせていただいたので今度は正確な値の測定の公開授業があれば参加したい。(バ イルザイン) ・バ イルザイン測定はどのように演習を受けているかがわかり、実際の臨床での実習のときに受けてきた講義の中から少し応用がきかせられるのではと思った。私自身内容を見ることができてよかった。(バ イルザイン) ・学生がどのようなことを苦手としているのか明確になった。今後もまた機会があれば参加したい。(バ イルザイン) ・現場で気をつけていることなども教えられる機会があつてよかった。(バ イルザイン)			

※FD (Faculty Development:ファカルティ・ディベロップメント):教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催など。(文部科学省Hp:中央教育審議会 大学分科会 制度部会資料より)

([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/003/gijiroku/06102415/004.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/003/gijiroku/06102415/004.htm) 2023年2月1日閲覧)

### 【上記結果を受けての評価】

- ・「見学型」に参加してくれる実習施設は例年ほぼ同様であり、固定化している。業務が忙しい中でも、学生指導に活かすため、実習指導者や中堅看護師を見学に出してくれる施設には感謝の念しかない。
- ・参加施設の実習指導者は、当校の看護技術教育の内容や現在の学生の傾向を把握し、臨地実習での学生指導に活かす・卒業後の新人教育に活かしたい等の希望を持っている。
- ・例年、日常生活援助技術や看護の基本となる技術が主としているが、今年度は「看護過程の展開:アセスメント発表」を公開した。5名の実習指導者の参加があり、アンケート結果からも「授業資料等が実習指導に役立つ」と好評であった。次年度も引き続き公開していきたい。
- ・今年度の技術演習の公開は、「見学型」であっても実習指導者に積極的に指導に携わっていただくようにした。演習に入る前に打ち合わせをおこなうことで特に問題なく実施できた。臨床の知を惜しみなく学生に教え伝えていただける機会として、また、学生側も臨床での知識に触れることで、教科書上では学べない具体が学べる機会として、次年度も積極的に演習に参加をお願いしていく。
- ・今年度は、コロナ禍以降、一度止まっていた「OSCE:客観的臨床実践能力評価」を再開した。実習指導者のみなさまにもご協力いただいた。次年度も継続するとともに、臨床判断や統合演習等、新カリキュラムで導入した科目の公開も考えていく。
- ・演習の公開授業は、参加した看護師にも「自分が学生の頃を思いだし」「自身の看護力を振り返る機会」となるようだ。実習施設側にも本事業の趣旨を説明し、実習指導者でなくてもかまわないので、たくさんの看護職の方々に参加いただくことで、実習指導や新人看護師の教育指導にも生かせるだけでなく、施設側の看護の質向上にもつながると考える。
- ・公開授業を実施することで、教員と指導者の「顔の見える関係」づくりにつながり、看護基礎教育と卒後教育をつなげる機会となる。今後は、看護基礎教育から新人看護師教育への移行がスムーズにつながるよう、学校と施設が教育連携を図る機会として継続していきたい。

令和6年度 年間学校行事

添付資料4

	全体	1学年	2学年	3学年
4月	第1回教職員会議(1日) 新人・新任教員研修(2~12日) 入学式・保護者会(8日) 第1回運営会議(入試委員会)(19日) 高校訪問・進学ガイダンス参加(上旬~) オープンキャンパス①(27日)	入学式・保護者会(8日) 新入生ガイダンス(9~11日) 健康診断・委員会活動(9日) 進研アド基礎力リサーチ(12日) 個人面接 学生交流会(30日)	始業式(5日) 入学式参列(8日) 健康診断・委員会活動(9日) 看護技術補講(10~12日)看護技術練習 進研アド基礎力リサーチ(12日) 国家試験対策外部講師補講(16・23日) 個人面接 学生交流会(30日)	始業式(5日) 入学式参列(8日)・成人看護過程補講 実習研修(8・9日) 健康診断・委員会活動(9日) 国家試験対策校内模試(10日) 校内必修対策補講(15・22日) 国家試験対策(外部講師補講)(12日) 個人面接 学生交流会(30日)
5月	第2回教職員会議(1日) 第2回運営会議(24日) オープンキャンパス②(25日) 財団第1回理事会(16日) 定時評議員会(31日)	看護の基礎となる施設実習Ⅰ(2~10日) 第60回いばらき看護の祭典(18日)	看護師国家試験ガイダンス(2日) 看護技術フェック(20日) 看護技術練習	国家試験必修対策(1日) 地域在宅看護論研修(2日) 国家試験対策外部講師補講(7日) 国家試験業者模擬試験(9日) 領域別実習Ⅰ(13~27日) 国家試験対策(領域別)(28・29日)
6月	第3回運営会議(19日) 第1回学校評価委員会(19日) 実習施設指導者合同会議(21日) オープンキャンパス③(29日)	看護の基礎となる地域演習Ⅰ(18~21日)	看護技術フェック(20日) 看護実践実習学内実習(研修) (21日)	領域別実習Ⅱ(3~17日) 国家試験対策(領域別)(18日) 領域別実習Ⅲ(24日~) ※母性Gのみ夏季休暇
7月	ゆりの会役員会(4日) 第4回運営会議(24日) オープンキャンパス④(27日) ゆりの会総会(書面議決)	看護技術フェック(9日) 終講式(23日) 夏季休業(24日~)	看護実践実習(16~30日) 国家試験対策外部講師補講(31日)	領域別実習Ⅲ(~8日) 国試対策業者模試(11日) 国家試験対策外部講師補講(12・19日) 国試対策(領域別)(9・17・18・22日) 終講式(23日) 夏季休業(24日~)
8月	看護教員連絡会全体研修会(3日) オープンキャンパス⑤(6日) 第5回運営会議(23日) 第2回学校評価委員会(23日)	夏季休業(~19日) 始講式(20日) 人間関係論ワークショップ(22・23日) 戴帽式研修(27日)	終講式(2日) 夏季休業(3日~)	夏季休業(~19日) 始講式(20日) 領域別実習Ⅳ(26日~)
9月	オープンキャンパス⑥(7日) 第6回運営会議(20日) 第2回理事会(9日) 財団・看護協会合同研修会(28日) 第2回評議員会(30日)	戴帽式練習 芸術発表会(5日) 進研アド基礎力リサーチ②(17日)	夏季休業(~1日) 始講式(2日) 進研アド基礎力リサーチ②(2日)	領域別実習Ⅳ(~9日) 国試対策業者模試(10日) 国家試験対策(領域別)(11・12日) 領域別実習Ⅴ(17日~)
10月	第3回教職員会議・業務中間評価(10日) 前期単位認定会議(10日) 第1回入試委員会(10日) 第1回入試全体打ち合わせ(16日) 指定校制・指定施設推薦入学試験(19日) ※追試験(26日) 第7回運営会議(17日)	戴帽式合同練習(2日) 戴帽式記念講演(7日) 戴帽式(8日) 前期単位認定会議(10日)	戴帽式合同練習(2日) 戴帽式記念講演(7日) 戴帽式(8日) 国試対策外部講師補講(10日) 前期単位認定会議(10日)	領域別実習Ⅴ(~2日) 国試対策外部講師補講(3日) 戴帽式記念講演(7日)統合実習研修(7日) 戴帽式(8日)・国家試験願書作成(8日) 前期単位認定会議(10日) 領域別実習Ⅵ(15~29日) 国家試験対策(領域別)(4・10・30・31日)
11月	実習施設指導者合同会議(6日) 第2回入試委員会(8日) 第2回入学試験全体打合せ(12日) 公募制推薦・第1回学士社会人・指定地域 就業選抜・就業者施設推薦入学試験(16日) ※追試験(23日) 第8回運営会議(22日)	きものDayゆうき参加(9日) 国試対策ガイダンス(18日) 看護技術フェック:VS(26日)	学生交流会(7日) 就職ガイダンス(11日) 看護過程展開実習研修(13日) 看護過程展開実習Ⅰ(27日~)	領域別実習Ⅶ(8~22日) 国試対策外部講師補講(1・29日) 国家試験対策業者模試(6日) 校内ハーフ模試(28日) 国家試験対策(領域別)(5・25日)
12月	第9回運営会議(23日) 第3回学校評価委員会(23日) 第1回入学前ガイダンス(24日)	社会字学発表会(5日) 看護の基礎となる地域演習Ⅱ(10~13日) 国試対策業者低学年模試(19日) 終講式(20日) 冬季休業(21日~)	看護過程展開実習Ⅰ(~11日) 看護過程展開実習Ⅱ研修(11日) 終講式(20日) 冬季休業(21日~)	国試対策外部講師補講(6・13・31日) 国試対策業者模試(10日) 終講式(20日) 冬季休業(21日~)
1月	第10回運営会議(20日) 第4回学校評価委員会(20日) 第3回入試委員会(10日) 第3回入試全体打ち合わせ(21日) 第1回一般・第2回学士社会人入学試験(25日) 第1回財団運営委員会(31日)	冬季休業(~7日) 始講式(8日) 看護技術フェック(23・29日) 看護の基礎となる施設実習研修(8日) 看護の基礎となる地域演習Ⅱ発表・保護者会(17日) 国家試験社行会(学生自治会)(31日)	冬季休業(~7日) 始講式(8日) 看護過程展開実習Ⅱ(15~30日) 国家試験社行会(学生自治会)(31日)	冬季休業(~7日) 始講式(8日) 国試対策外部講師補講(10・17・24・31日) 国試対策業者模試(9日) 国試対策ハーフ模試 国家試験社行会(学生自治会)(31日)
2月 (予定)	卒業認定会議(10日) 第11回運営会議(21日) 第2回一般・第3回学士社会人入学試験(22日) 学校関係者評価委員会(20日)	看護の基礎となる施設実習Ⅱ(3~7日) 県立医療大学フロンティア・県立医療大学付属病院見学(12日) 国試対策外部講師補講(17日) 社会福祉・租税教室(26日) 国家試験対策業者低学年模試(27日)	看護過程展開実習Ⅲ(12~27日)	国試研修・国試合格祈願(4日) 国試対策外部講師補講(7日) 国家試験直前研修(14日) 第114回看護師国家試験(16日) 国試自己採点(18日)卒業前研修(19日) 同窓会・ナースター届出制度説明(25日) 免許証登録説明(26日)
3月 (予定)	卒業式(4日) 第2回入学前ガイダンス(7日) 就職説明会(11日) オープンキャンパス⑦(15日) 第12回運営会議(18日) 第3回教職員会議・業務最終評価(19日) 後期単位認定会議(19日) 第114回国家試験合格発表(24日) 入学者向け入学前教育:Nゼミ(24・27日) 定時評議員会	卒業記念講演参加 卒業祝賀会(学生自治会:3日) 国試対策外部講師補講(5・12日) 看護技術フェック(6日) 就職説明会(11日) 終業式(14日) 春季休業(15日~4/7)	卒業記念講演参加 卒業祝賀会(学生自治会) 各領域別実習研修 国試対策外部講師補講(6・13日) 終業式(14日) 春季休業(15日~4/7)	卒業記念講演(3日) 卒業祝賀会(学生自治会)(3日) 卒業式(4日)

## 2024年度茨城県結城看護専門学校学校評価（自己点検）

赤字：★イタダク 青字：★イタダク

大項目	中項目	小項目	NO	BNO	評価の視点	令和6年度			令和5年度							
						小項目平均	中項目平均	大項目平均	小項目平均	中項目平均	大項目平均					
1 将来育構理念	1-1) 教育理念	1-1 教育理念、目的、目標、育成人材像、職業教育の特色の設定・評価	1	1-1-b	1 教育理念・目的・目標は公表され、人材育成像の内容と一致している。	3.5	3.5	3.5	3.7	3.7	3.8					
			2	1-2-b	2 教職員は教育理念・目標等を共有し、学生指導・学年運営に活用している。											
	1-2) 将来構想	1-3	3	1-3-a	3 年度当初に運営方針・重点目標・教育目標に関する考えを教職員に周知している。	3.5	3.5									
			4	1-3-b	4 社会の変化・地域のニーズ等を踏まえ、中期(5年程度)・長期(10年程度)的な視点で将来構想を示している。											
2 学生受入れ募集	2-1) 学生募集	2-4 学生募集の方法	3	2-4-a	5 学校の教育理念・目標を反映した「求める入学生像」を示している。	3.6	3.7	3.8	3.6	3.7	3.6					
			6	2-4-b	6 社会の変化・地域のニーズ等を踏まえた学生募集の種類・方法を示している。											
		2-5 学生募集の広報	7	2-5-a	7 学校案内、学生募集要項、パンフレット等は毎年見直し作成している。	3.5										
			8	2-5-b	8 志願者が関心をもつような情報を提供している。(学納金・教育活動状況・就職状況・奨学金・教育訓練給付金制度等)											
	2-2) 入学選抜	2-7 入学選抜の試験方法	9	2-6-a	9 オフ・キャンパス・学校見学会を実施し、高等学校等への訪問・進路ガイダンス・模擬授業等に積極的に参加している。	3.9	3.9		3.6	3.6		3.7				
			10	2-7-a	10 入試委員会・職員会議等で課題を検討し、入学試験要項(選抜方法、合格基準)を明確化し運用している。											
	2-3) 学生充実	2-8 学生定員の量・質的充足状況	11	2-8-a	11 在学生は定員の95%以上、入学者は定員40名を満たすよう努めている。	3.7			3.7	3.5			3.6	3.8		
			12	2-8-c	12 休学・退学防止のための対策を講じ、休学・退学率の低減を図っている。											
2-9 学生募集・学生入りに関する評価		13	2-9-a	13 志願者・合格者・入学者等の推移・募集活動・入試方法の評価を行っている。	3.7											
		14	3-10-a	14 定期的に健康診断を実施し、有所見者に対して校医診察・再健診等のフォロー体制がある。												
3 学生支援	3-1) 学業継続の支援	3-10 健康管理	9	3-10-b	15 定期的に担任による面接を行い、必要時に外来受診を勧め、継続的にフォローしている。	3.5		3.5	3.6	3.7	3.6		3.7			
			10	3-11-b	16 施設等からの求人票等の情報を学生に公開し、活用しやすい環境を整えている。											
		3-11 進路・就職の支援体制	16	3-11-c	17 就職・進路の相談をできる体制や就職説明会を開催したり、施設主体の説明会に学生参加を奨励している。	3.5										
			17	3-11-d	18 履歴書の書き方、面接に関する講座や個別指導を行っている。											
		3-12 学生相談の整備	18	3-12-b	19 専門カウンセラーによる相談を整備し、教員と連携して学校生活を支援している。	3.6										
			19	3-13-a	20 自治会の円滑な活動に向けて支援している。											
	3-13 自治会・課外活動の支援	20	3-14-a	21 保護者に教育・学習状況等の情報提供をし、適宜連絡・相談・面接を行っている。	3.5											
		21	3-15-a	22 大学卒業者の既修得単位の認定を学則等に定め、単位互換制度等の対応をしている。												
	3-2) 社会人としての育成	3-15 社会人としての育成	22	4-16-a	23 教育理念・目的・目標にあつた科目を設定し、計画されている。	3.1	3.1			3.2		3.2		3.4	3.4	
			23	4-16-b	24 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立つた教育課程の工夫・開発が実施されている。											
4 教育活動	4-1) 教育課程の編成	4-16 教育課程の点検・見直し	15	4-18-a	25 教育課程の見直しは実施方針を踏まえて効果的であったか点検・見直しを定期的に行っている。	3.1	3.3	3.4	3.2	3.1	3.4					
			16	4-19-a	26 年度初めに教育課程・学生便覧・教育計画・進捗に関して説明している。											
		4-2) 教授・学習評価課程	4-19 学習支援ガイダンス	17	4-20-a	27 講義・実習の進捗は整合性を考慮しながら計画通りに行われている。			3.5							
				18	4-20-c	28 実習目的・目標・方法について学生・実習指導者に説明している。										
	4-21 授業科目の担当・時間		19	4-21-b	29 教員一人当たりの週授業時間は15時間以内である。	2.6										
			20	4-21-c	30 教員の実習指導時間は3時間に1時間程度の準備時間を見込み計画している。											
	4-22 対象者への実習協力依頼	4-22 教育方法の工夫	20	4-22-a	32 実習における対象者への安全確保・個人情報の保護に関して対象者・家族に説明し、同意書を交わしている。	3.8										
			21	4-22-b	33 実習における事故(医療事故・感染)に対して安全管理体制を整えている。											
	4-23 教育方法の検討	4-23 教育方法の検討	21	4-23-a	34 授業内容は精選され、学生が主体的に学習できるよう効果的に構成されている。	3.1										
			22	4-23-d	35 看護の視点で、講義・演習・実習など学習ができるよう指導方法を取っている。											
		4-24 授業評価	22	4-23-e	36 視聴覚教材の量と質は十分で、効果的に活用している。	3.3										
			23	4-23-f	37 実習・演習において、実習施設との連携による効果的な教育を行っている。											
	4-25 成績評価、単位認定、進級・卒業判定	4-25 成績評価、単位認定、進級・卒業判定	23	4-24-a	38 教員会議等で授業内容・方法の検討会・学習会を行っている。	3.4										
			24	4-24-b	39 授業(講義・演習・実習)終了時に学生による授業評価を行っている。											
	4-3) 指導者確保・育成	4-26 人材確保、組織編制	24	4-25-a	41 評価方法、評価基準、単位認定について、学則・規程等に定めている。	3.9	3.9		3.8			3.8	3.3	3.3		
			25	4-25-c	42 単位認定会議、判定会議は定期的に行い、年度末に学生・保護者に成績通知している。											
			4-27 教員の能力開発・向上	25	4-26-a										43 教員数は関係法令の基準を満たし、また必要に応じた人員を確保している。	3.2
				26	4-26-b										44 産学連携・協力体制により、教員・講師の確保に努めている。	
		4-28 学級運営	4-27 教員の能力開発・向上	26	4-27-a	45 教員の能力向上のための研修・学会参加を奨励・支援している。			3.2							
				27	4-27-b	46 学会・研修後は伝達講習を行い、教員間で知識・技能の共有化を図っている。										
4-28 学級運営			27	4-28-a	47 教員は学生の個性を把握し、主体的に学習に取り組めるよう学生の立場に立って支援している。	3.2										
			28	4-28-b	48 集団による学習が円滑かつ効果があがるよう、計画し実施・評価している。											
4-4) 学修成果	4-31 資格取得率の向上	28	4-31-a	49 各学年の国家試験対策への取組みを学生・保護者に説明している。	3.7	3.3	3.6	3.3	3.6	3.3						
		29	4-31-c	50 外部業者と連携し国試対策講座の実施、基礎学力の向上を図っている。												
		30	4-31-d	51 模擬試験の結果を分析し、学力低迷者を個別に学習支援している。												
		31	4-32-a	52 各年度で看護技術到達状況を評価し、課題の明確化、対策を講じている。												
	4-32 看護実践能力の向上	4-32 看護実践能力の向上	29	4-32-b	53 演習・実習での学習内容・方法を工夫し、看護実践力を強化している。		3.1									
			30	4-32-c	54 専門職業人として倫理に基づいた行動がとれるよう、支援している。											
		4-33 就職率の向上	30	4-33-b	55 県内就業、特に東西地域の就職率の向上が図られている。		3.5									
			31	4-34-a	56 卒業者のキャリア形成の実態を把握し、校内教育活動の向上に活用している。											
5 教育環境	5-1) 教育環境の整備	5-35 校舎の整備	32	5-35-a	57 施設・設備、教員等の種類・数量は関係法令に適合し、設備・配置している。	3.6	3.7	3.3	3.4	3.5						
			33	5-35-c	58 施設利用規定が整備され、施設・設備の点検、補修・修繕は定期的に行っている。											
		5-36 福利厚生	5-36 福利厚生	33	5-36-a	59 校内に自動販売機、電子レンジ、給湯、弁当販売など整備している。			3.8							
				34	5-36-b	60 学生ホールは学生の交流の場として整備している。										
			5-37 図書室の整備・管理	34	5-36-c	61 学生傷害保険に加入している。			3.8							
				35	5-37-a	62 図書類は分野毎・領域毎に分類され、予算措置を講じ計画的に増補している。										
	5-2) 実習施設の整備	5-38 教材の整備・管理	5-38 教材の整備・管理	35	5-37-c	63 蔵書及び学術雑誌は、指定基準を有し、定期的に整理・点検している。		3.8								
				36	5-37-d	64 司書を配置し、学生が利用しやすい時間帯に開館し、自習できる環境を整備している。										
		5-39 実習施設の整備	5-39 実習施設の整備	36	5-37-f	65 学校内で文献検索のためのインターネット環境が整備されている。		3.5								
				37	5-38-a	66 教材教具(経費含)は定期的に点検・評価を行い、専門領域毎に計画的に増補している。										
			5-40 実習指導体制	37	5-38-b	67 機器、標本、模型、視聴覚教材(VTR,OHP,カマ等)が学生数に見合った数を整備している。		3.4								
				38	5-39-a	68 実習科目の目標・内容に合った実習施設を確保している。										
5-3) 安全対策	5-39 実習指導体制	5-40 実習指導体制	37	5-39-c	69 実習施設では実習に必要な図書・看護用具・討議室・更衣室等が整備されている。	3.4										
			38	5-40-a	70 実習指導者は学生に看護実践において適切に助言・指導している。											
	5-41 防災・安全教育	5-41 防災・安全教育	38	5-40-b	71 実習指導者と教員は役割分担を明確にして学生指導に当たっている。	3.5										
			39	5-40-c	72 実習指導者会議は定期的開催し、効果的な意見交換ができています。											
39	5-41-a	73 教職員・学生に対して防災研修・教育を行っている。	2.9	2.9	2.8	2.8										
40	5-41-b	74 地域で開催する防災訓練等に教職員・学生が参加している。														

大項目	中項目	小項目	NO	WNO	評価の視点	小項目平均	中項目平均	大項目平均	小項目平均	中項目平均	大項目平均	
6	6-1) 学校経営	6-43 運営方針・事業計画の策定	39	6-43-a	75	運営方針を策定し、事業計画とそれに伴う予算措置を講じ執行状況を報告している。	3.7	3.6	3.5	3.6	3.8	
		6-44 経営意識	40	6-44-a	76	教職員は経営意識を持ちながら、PDCAサイクルを展開している。	3.5				3.4	
	6-2) 組織管理	6-45 組織の整備	6-45-d	41	6-45-d	77	職務分掌・業務内容は効果的な業務遂行が図れるよう、定期的に見直している。	3.5			3.7	3.2
			6-45-e	78	職員は各々の職務分掌に則り、その役割を果たしている。	3.2						
			6-45-h	79	コンプライアンスに対する意識向上に努めている。	3.4	3.2					
			6-45-i	80	ワーク・ライフ・バランスの推進に向けて取り組んでいる。(ノ残業ア遵守、毎月10日間19時で閉庁、年間10日以上年休取得等)		3.2					
		6-46 教員・講師の要件	43	6-46-b	81	教頭、教務主任、専任教員、実習指導教員、非常勤講師は資格要件を具備している。	3.8	3.8				
		6-47 危機管理	6-47-a	82	防災計画や消防計画を消防署に届出し、防災訓練・安全教育を毎年実施している。	3.6	3.7	3.3				
			6-47-b	83	施設・設備の耐震化を図っている。			3.3				
			6-47-c	84	危機管理マニュアルを作成し、定期的に見直しを行っている。			3.3				
	6-48 学籍の管理	6-48-a	85	学籍簿は学籍の記録、履修状況が正確に記載され、証明機能を整えている。	3.9	3.9	3.8					
		6-48-b	86	学籍簿は適切に保管し、個人情報に関する秘密が守られている。			3.8					
	6-49 会議運営	6-49-a	87	学内の各種会議に係る規程が整備され、定期的を開催している。	3.6	3.6	3.7					
		6-49-b	88	理事会会議規則、寄附行為が整備され、理事会、評議員会を定期的を開催している。			3.7					
		6-49-c	89	人事・給与規定等が整備され、運用されている。			3.7					
	6-50 データ管理	6-50-a	90	卒業時の進路状況が整理されている。	3.8	3.8	3.8					
		6-50-b	91	事業に係る資料等を経年的に整理され、活用されている。			3.8					
	6-3) 教職員の育成	6-51 目標管理制度、研修・研究活動	6-51-a	92	6-51-a	92	教員のキャリア支援、目標管理制度を活用した助言・指導を実施している。	3.5			3.1	3.5
			6-51-b	93	研修・研究活動の予算措置を講じている。	3.5						
			6-51-c	94	教員は教育・看護実践能力を高めるため研修・学会に参加している。	3.5						
6-52 教職員の協働意欲		49	6-52-a	95	教員同士が相手の立場や役割を理解し、コミュニケーションが取りやすい雰囲気がある。	2.7	2.5					
6-4) 卒業生の支援	6-53 卒業生への支援	6-53-a	96	6-53-a	96	看護師資格不合格者に対して、卒業後1年間の支援体制を整えている。	3.4	3.4	3.5			
		6-53-b	97	再就職・キャリアアップ等の相談に対処している。	3.5							
		6-53-c	98	学校は同窓会との連携を図っている。	3.5							
6-5) 評価	6-54 自己評価の実施、結果公表	6-54-a	99	6-54-a	99	学校評価ガイドラインに基づき、自己点検・評価システムが作られている。	3.8	3.8	3.7			
		6-54-b	100	自己評価結果・学校関係者評価結果を報告書にまとめ、ホームページに公表している。	3.7							
7 財務	財務・収支	7-55 中長期的な財務基盤の安定	52	7-55-a	101	出願者数、入学者数及び定員充足率の推移を把握している。	3.9	3.9	3.8	3.8		
		7-56 予算の適切な執行状況	7-56-a	102	7-56-a	102	収入と支出のバランスが取れ、予算・収支計画は有効かつ妥当なものである。			3.6	3.6	3.8
			7-56-b	103	予算執行に係るチェック体制の整備、適切な会計処置を行っている。	3.8						
		7-57 会計監査、財務情報の公開	7-57-a	104	7-57-a	104	会計監査体制のルールが明確化され、結果報告が文章化されている。			3.9	3.9	3.9
			7-57-b	105	財務情報について、ホームページに公開している。	3.9						
8 法令の厳守	法令・規定	8-58 法令、専修学校設置基準等の遵守、適正な運営	8-58-a	106	8-58-a	106	監督官庁に対し、申請・届出等を遅延なく行っている。	3.7	3.6	3.7		
			8-58-b	107	8-58-b	107	学校運営に必要な諸規程を整備し、それを適正に運営している。			3.7		
			8-58-c	108	8-58-c	108	セキュアハウスメント・アカデミックハウスメント等の防止に関する規程を明文化し対策を講じている。			3.7		
		8-59 個人情報の取扱いに関する規程の整備	8-59-a	109	8-59-a	109	個人情報の取扱いについて、規程・方針を策定・周知し、個人情報の保護を遵守している。	3.5		3.5	3.7	
			8-59-b	110	8-59-b	110	リムバ「アルテ」IA「ウエ」サイト等からの情報漏洩防止策を講じている。				3.7	
			8-60 教育情報の情報提供	57	8-60-a	111	8-60-a				111	学校概要、教育内容、教育成果等を積極的に公開している。
9 社会貢献	地域・社会貢献	9-61 子校の教育資源・施設の活用	58	9-61-a	112	9-61-a	112	地域、関連業界、同窓会等が研修会等を開催する際、施設等を開放する等協力している。	3.4	3.5	3.8	
		9-62 地域交流の奨励・支援	59	9-62-a	113	9-62-a	113	地域で開催する行事・イベント等のボランティア活動に対する学生参加を奨励・支援している。	3.5		3.5	
		9-63 職業意識の涵養	60	9-63-a	114	9-63-a	114	高校生等にキャリア・職業教育に関する職業意識の涵養・高揚に努めている。	3.7		3.7	

# 令和6年度学校評価 学校関係者評価報告書

茨城県結城看護専門学校

## 1 評価委員構成

評価委員…9名 内訳：実習施設関係者4名、教育機関3名、卒業生1名、行政機関1名

## 2 学校の自己評価に対する客観的評価

### 1) 評価結果

評価基準	評価人数
評価は妥当である	8人 (88.9%)
評価は概ね妥当である (少し課題がある)	1人 (11.1%)
評価はやや妥当である (課題がやや多めである)	—
評価は妥当とは言えない (課題がかなり多くある)	—

### 2) 各委員からの意見

- ・推移のレーダーチャート上のグラフが一番小さい円になっていることが気になった。県西地域の人材育成とはいえ、世の中の流れの中で、さまざまな課題に取り組みながら（学生募集との関係性も踏まえて）継続していく困難さを感じた。
- ・教育内容では病院と学校の連携は今後も継続していく必要性を強く感じた。
- ・新人教員に対する支援が手厚く、心強いと感じた。
- ・今の正直な学校の姿が見えてきた評価・結果であると思う。
- ・学校運営自己評価について細部に渡り分析されており妥当と思う。
- ・確実に評価されていると思う。

### 3) 改善点・期待する点

- ① 学校と臨床の連携の継続
- ② 新人看護教員への手厚い支援の継続

## 3 重点目標の自己評価に対する客観的評価

### 1) 評価結果

評価基準	評価人数
評価は妥当である	8人 (88.9%)
評価は概ね妥当である (少し課題がある)	1人 (11.1%)
評価はやや妥当である (課題がやや多めである)	—
評価は妥当とは言えない (課題がかなり多くある)	—

### 2) 各委員からの意見

- ・教育の面では、中堅となる方々への支援は病院も学校も同じだと感じる。
- ・資料3には大変丁寧に「重点的に取り組むべき課題と目標」への「取り組み状況と結果」「課題」が記述されているが、重点項目に挙げて対策を講じたことが、「令和6年度学校評価自己評価報告書」の大項目の評価にどのように影響があったかが示されるとよりわかりやすいと感じた。
- ・「Ⅲ 全体を通して」のところに、(例)「重点項目として取り組んだ内容に関連する大項目はすべて±0ポイントであった」等、記載しても良いと感じた。

### ○重点目標5に対して

- ・ワークバランスでは、職場の人間関係は長く時間がかかると思うが、改善できるよう取り組んでいる姿勢は素晴らしいと感じた。
- ・取り組み状況と結果「職場環境の改善」の中で、「以前より悪くなった」「気軽に声をかけあえない」等が気になったが、今後状況が緩和されていくと思っている。

- ・取り組むべき重点課題を絞り込み、適切に対応されていたと思う。課題にもあるが「職場環境の改善」は継続的な取り組みが重要と思う。(※どこの組織にも同様の課題がありますが・・・)
- ・職場環境は職員ひとり一人の意識・配慮によって改善されていくため、職員の意識改革をどのようにしていくか、難しい課題ではある。
- ・「教員相互が教育力を高め合う環境・職場風土を構築する」について、前年度と比較して「職場環境がやや悪化した・悪化した」と感じている教員が半数を超えていることが、とても印象に残っている。職場の雰囲気が悪いだけでも、職員の休職・退職につながってしまうと思うため、来年度も重点的な課題として対策を検討してほしいと思う。

### 3) 改善点・期待する点

- ① 組織としての職場環境の改善（協働意欲の構築・教職員間のコミュニケーションと連携の強化）の継続

## 4 その他のご意見等

### ①公開授業や行事等について

- ・保護者への授業参観は良い取り組みだと思う。教職員の熱意と気概を感じる。学生の学修意欲にも良い影響があると思う。ぜひ無理のない範囲で継続していただきたい。
- ・せっかく実施しているのであるから、年間学校行事に記載したほうがよい。

### ②その他

- ・休学者1名は少ない。もっと多い印象だった。
- ・学生アルバイトは普及しているのか気になった。
- ・教員の質と量の確保（人員）で大変苦慮されているのがよくわかった。
- ・実習での協力はできるだけおこなっていくので、お声がけください。
- ・働きやすさ・人間関係が良くなると、忙しさもやりがいにつながると思う。
- ・資料3は文字を拡大して、A3綴じ込みのほうがより見やすいと感じた。
- ・教職員の教育力と組織力の向上に取り組む姿勢は、大変すばらしいと感じた。
- ・学生のことを大切に教育していると思う。学校運営は適正かつ効率的におこなわれている。

以上